

第2部

福岡市の現状や課題に 対する主なご意見

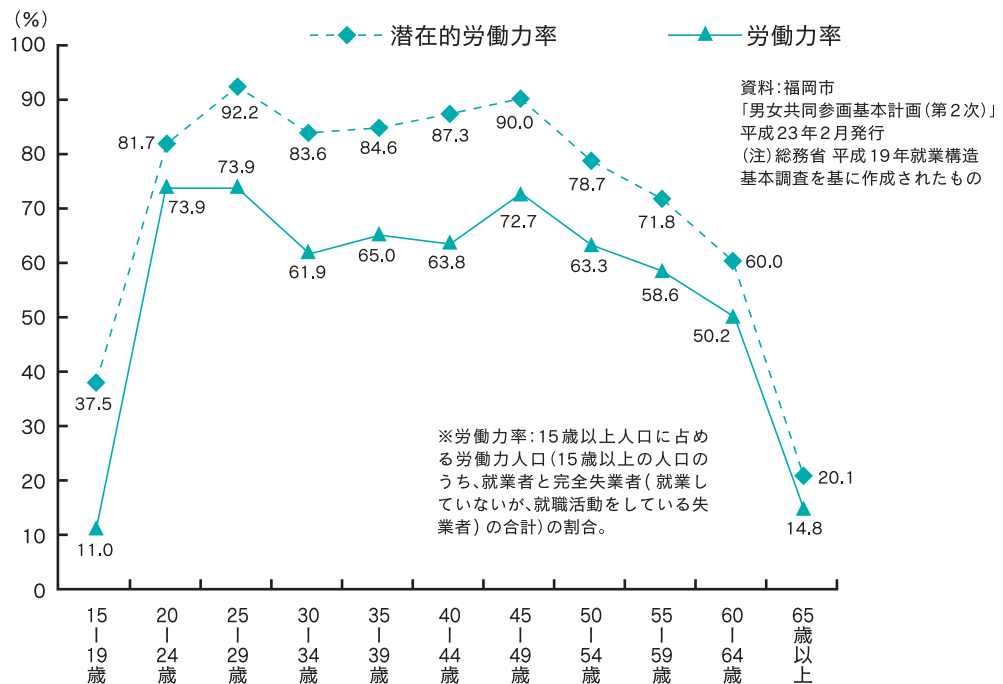
皆さまからいただいた福岡市の現状や課題についてのご意見を集約・抜粋しました。
また、ご意見等に関連するデータを市において抽出し、掲載しました。

1 女性・子ども・教育

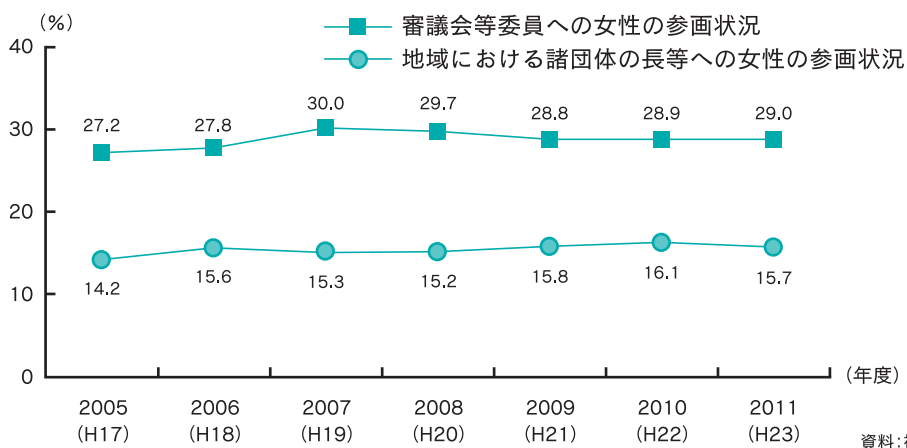
▶ 女性の能力が十分活用されていない。

30代の女性が子育てのために一旦仕事を離れており、もったいない。

● 女性の年齢階級別労働力率・潜在的労働力率(福岡市)

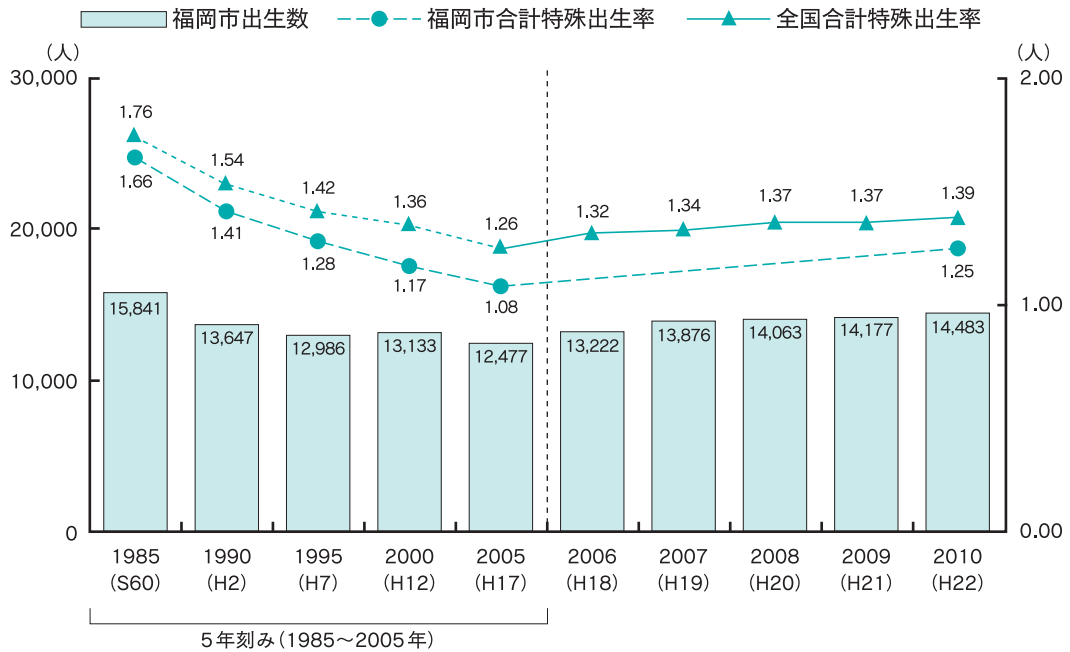


● 福岡市の審議会等委員、地域における諸団体の長等への女性の参画状況



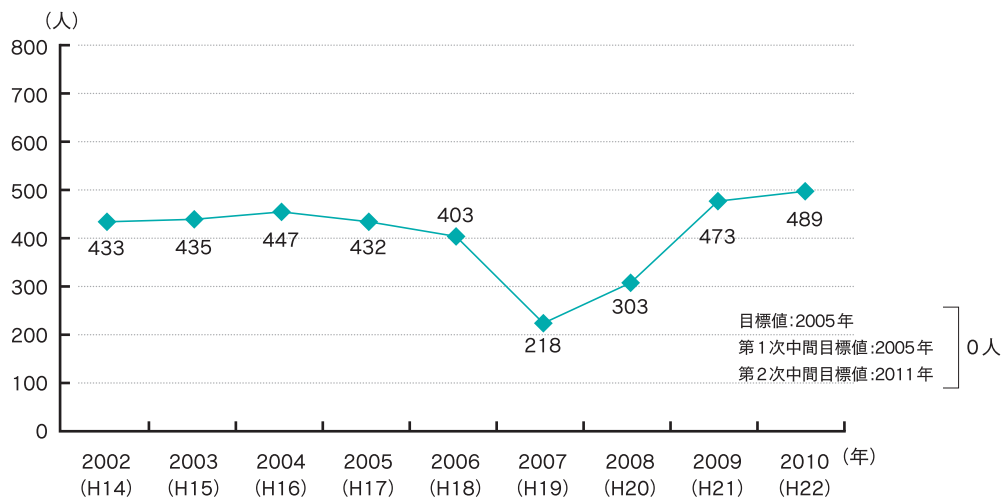
▶ 合計特殊出生率は低く、保育施設も不足している。
 今後、人口の自然増は見込めないのだから、本当に子どもを
 育てやすいまちになれるかが、都市の成長を左右する要素である。

● 出生数、合計特殊出生率



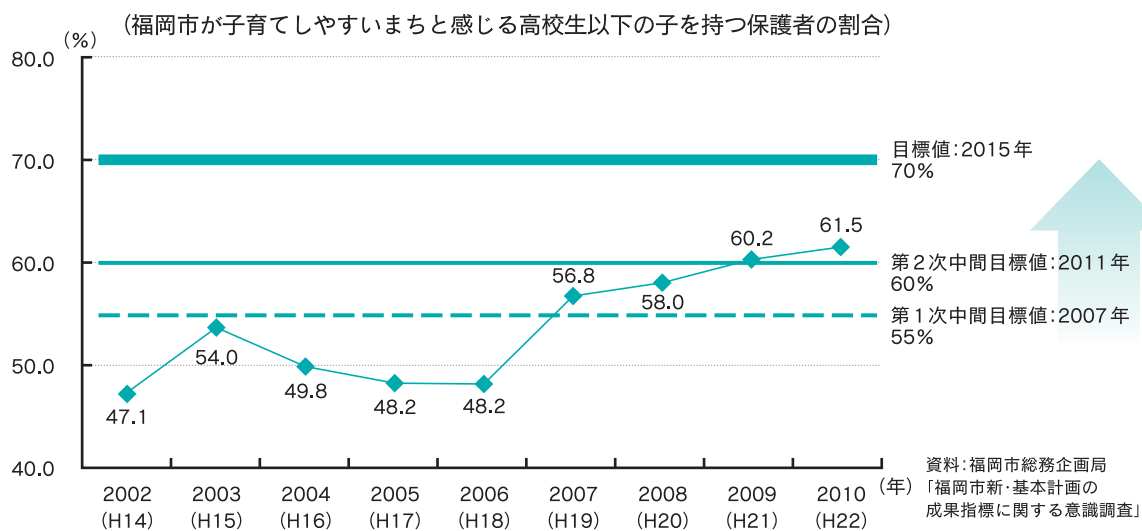
資料:厚生労働省「人口動態統計」、福岡市子ども未来局
 (注)合計特殊出生率:一人の女性が、その年の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数
 (政令指定都市は5年おきの調査)

● 保育所入所待機児童数



資料:福岡市子ども未来局
 (注)各年4月1日現在
 ◇目標値:平成15年(2003年)に策定した福岡市新・基本計画で設定
 ◇第1次中間目標値:平成16年(2004年)に策定した新・基本計画第1次実施計画で設定
 ◇第2次中間目標値:平成20年(2008年)に策定した新・基本計画第2次実施計画で設定

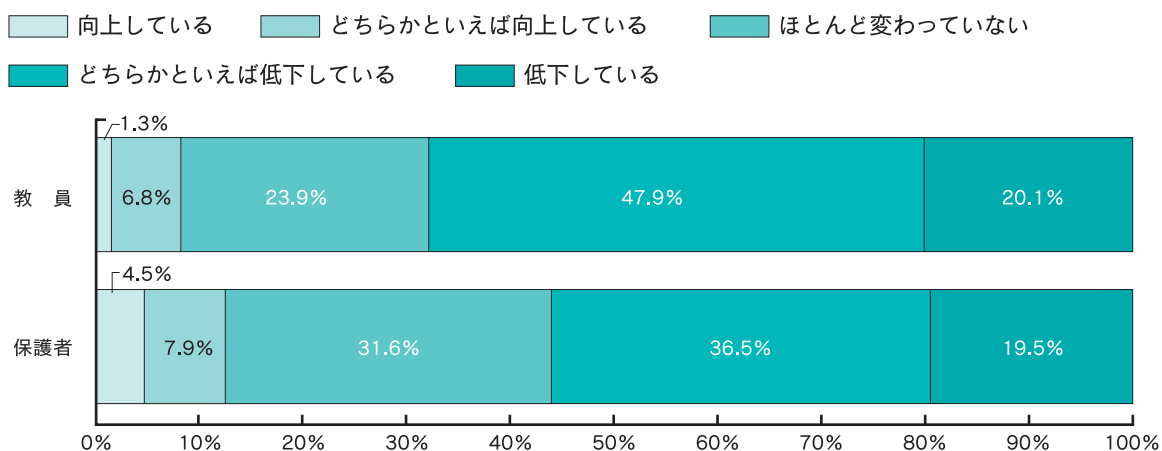
●子育て環境満足度



- ▶ 挨拶をしない、人の話をじっと聞くことができない子どもの割合が増えてきている。また、子ども達が外遊びをしなくなったことにより、体力が低下している。
- ▶ グローバルな時代では、様々な国と共存しコミュニケーションを取っていかねばならず、討論をし、自分の考えを他人にきちんと伝える能力を学校で育む必要がある。
- ▶ 海外、とりわけアジアとの関わり合いなくして、日本は生き残っていけない。英語に触れる場、体験する場を増やすことが大事である。

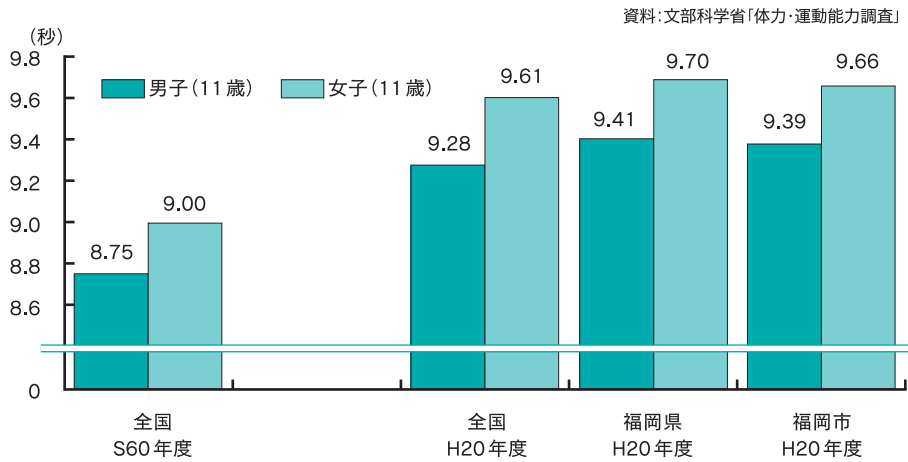
●子どもの基本的な生活習慣(規則正しい生活や自分のことは自分でやるという習慣)

Q.あなたが子どもだった頃に比べてまわりの子どもたちの状況をどのように感じますか。

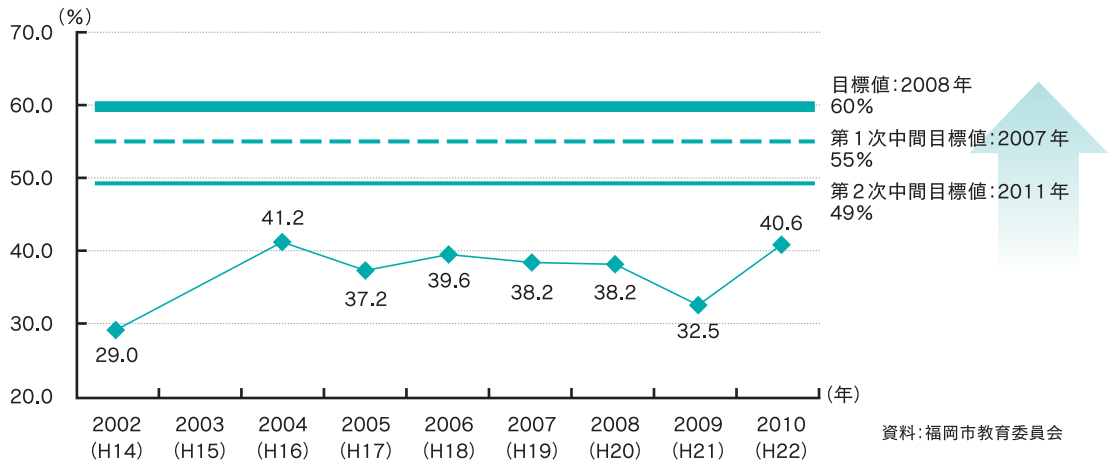


資料:福岡市教育委員会「福岡市教育に関するアンケート」(2008(H20)年度)

●子どもの体力・運動能力の変化(50m走記録 小学5年生/男子・女子)

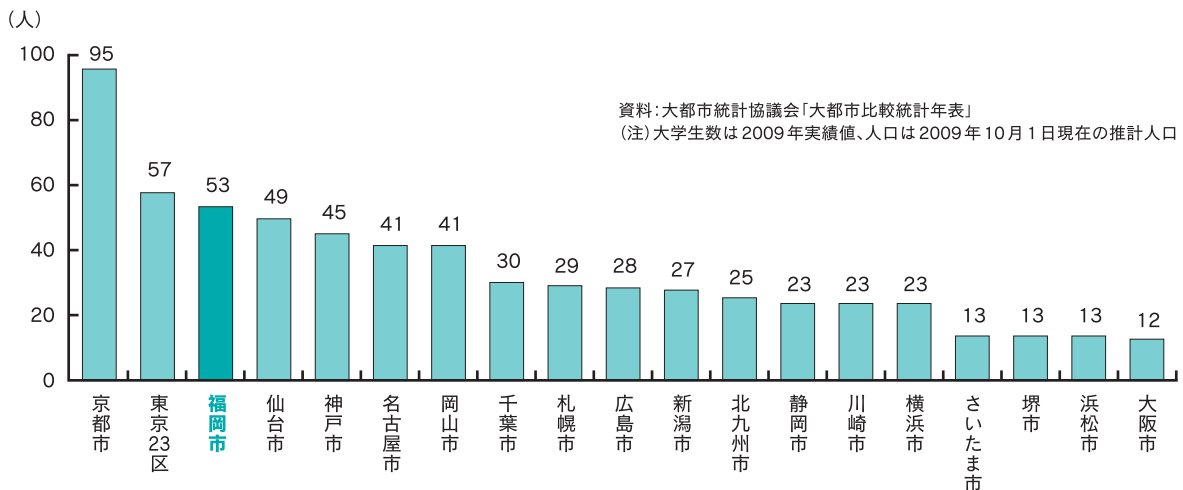


●外国語で簡単な日常会話ができる自信がある生徒の割合



▶学生の多いまちであるが就職となると多くは福岡を離れて東京や大阪に行ってしまう。

●人口千人あたりの大学生数(短大生含む)【大都市比較】(2009年)

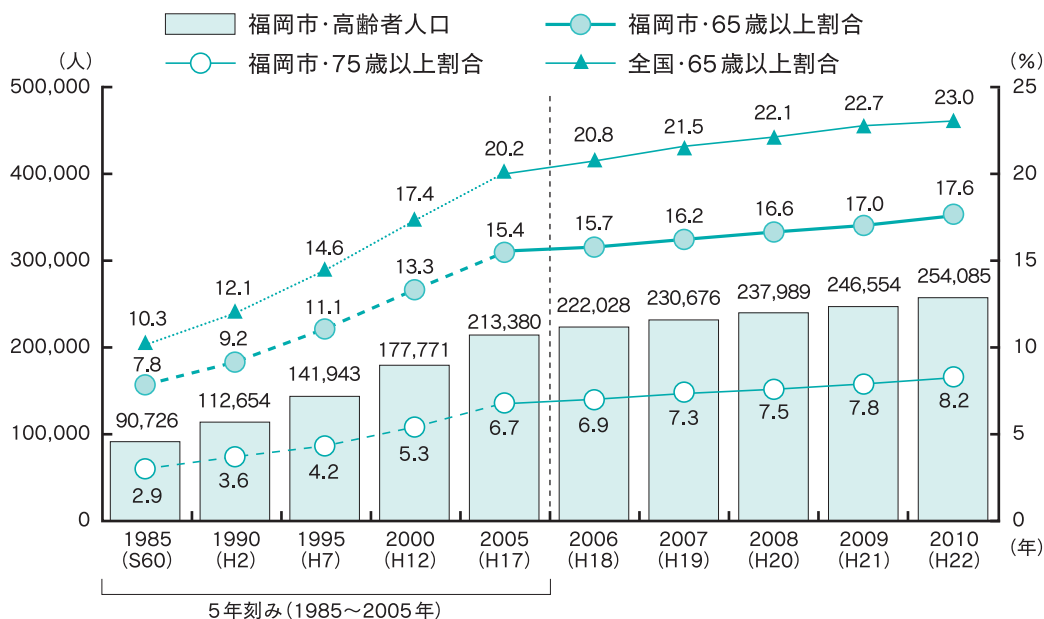


2 健康・福祉・高齢化

▶ 福岡市は、若い都市を掲げているが、既に29歳以下の人口は減っている。一方で2045年までに65歳～74歳は2005年比で1.5倍に、75歳以上は2.5倍に増えると予想されている。若い人がたくさんいるときにできた制度では対応できなくなる。

● 高齢者人口・割合

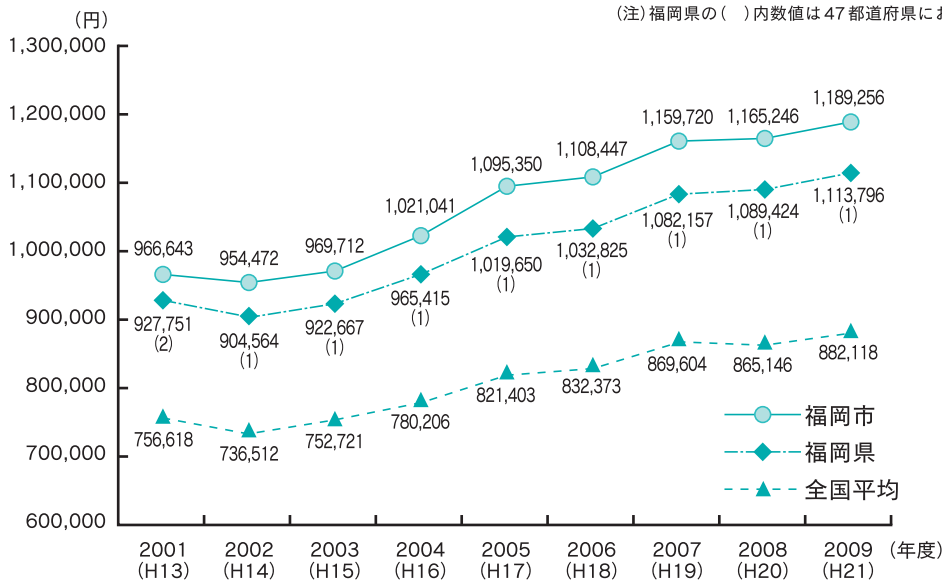
資料：国勢調査 注：2006～2009年は、推計人口（各年10月1日現在）
（注）構成の算出に当たっては総数から年齢不詳を除外している



▶ 福岡市の一人あたりの医療費・介護費の負担は他都市と比較しても非常に高く、医療・介護・福祉に対しお金のかかる構造が改善できていない。

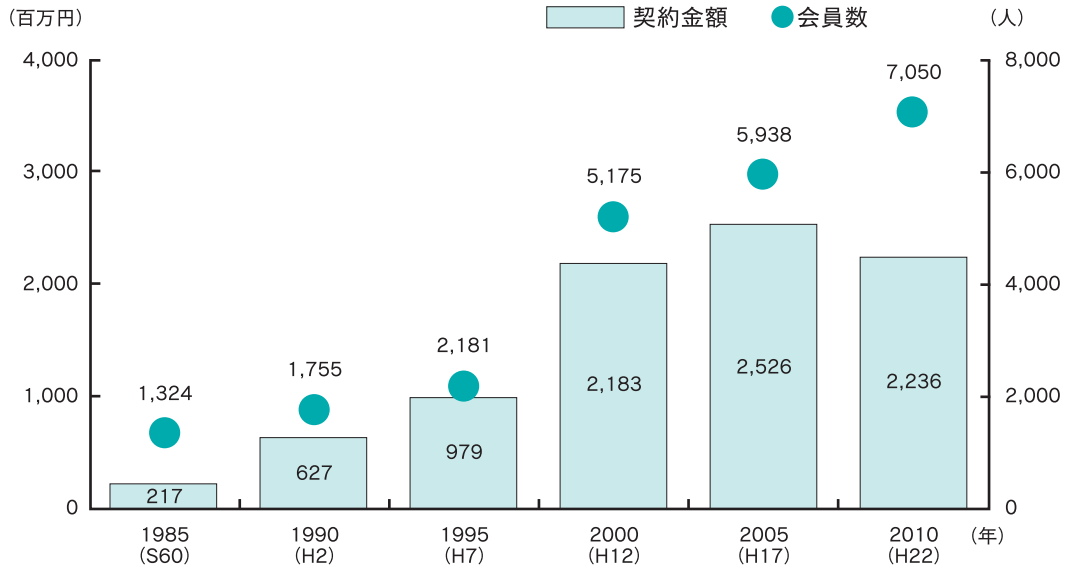
● 後期高齢被保険者一人あたり医療費

資料：2001～2007年度は厚生労働省「老人医療事業年報」、2008年度以降は厚生労働省「後期高齢者医療事業年報」
（注）福岡県の（ ）内数値は47都道府県における順位を示す。



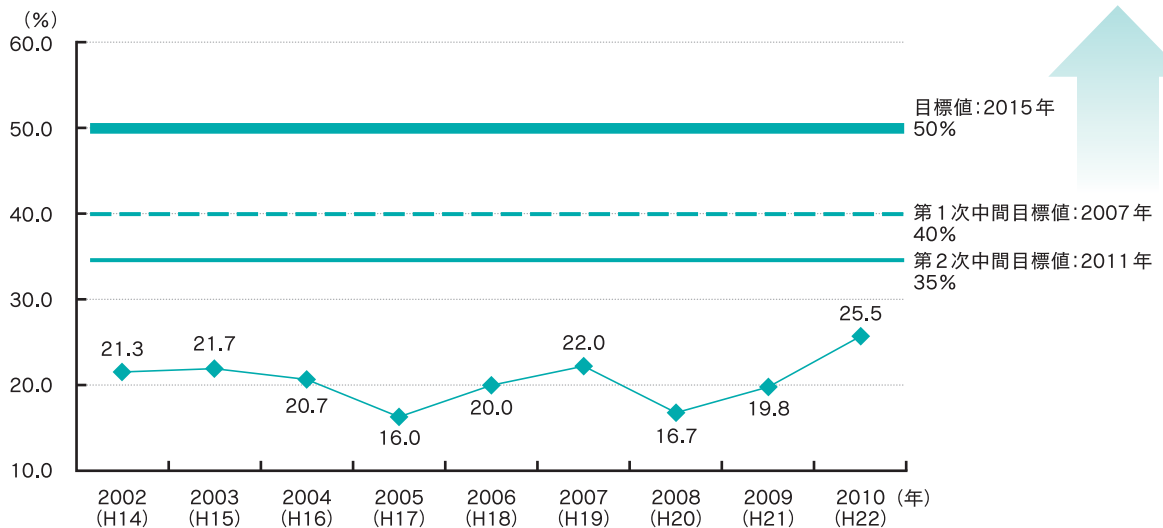
- ▶ 高齢者の持っている力を引き出し、若者と同等の“主人公”として活躍できる社会へと変えていかなくては、これから活力は持続できない。
- ▶ 地域にファシリテーター(協働促進者)やコーディネーターとして入り、時間とやる気のある高齢者と行政、専門家などの橋渡しをする中立的立場からの人材が必要。

● シルバー人材センターの状況



資料:福岡市保健福祉局

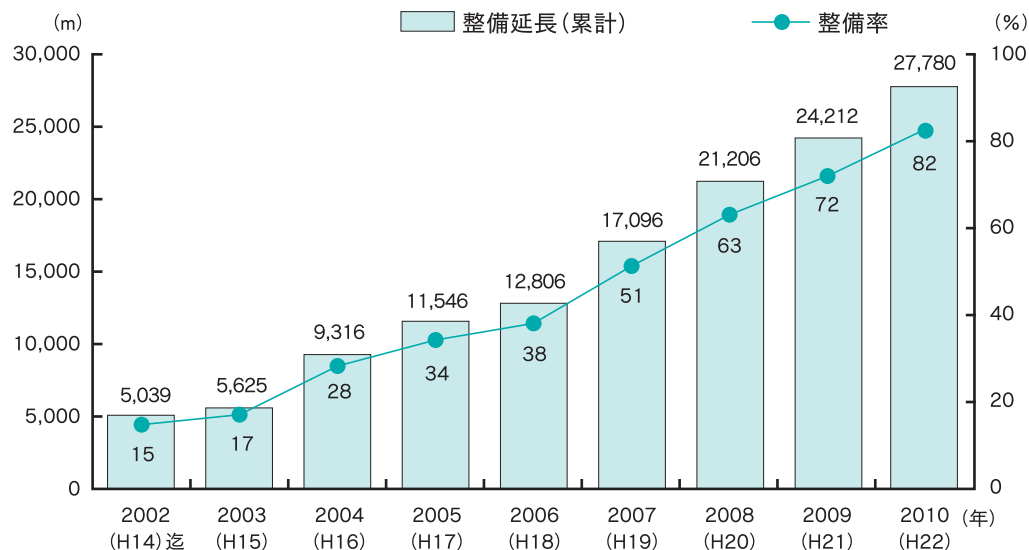
● 高齢者の活動度(ボランティア活動を行う高齢者の割合)



資料:福岡市総務企画局
「福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査」

▶ 以前にくらべて、障がい者が外出しやすくなったが、まだ気軽に歩くことはできない。

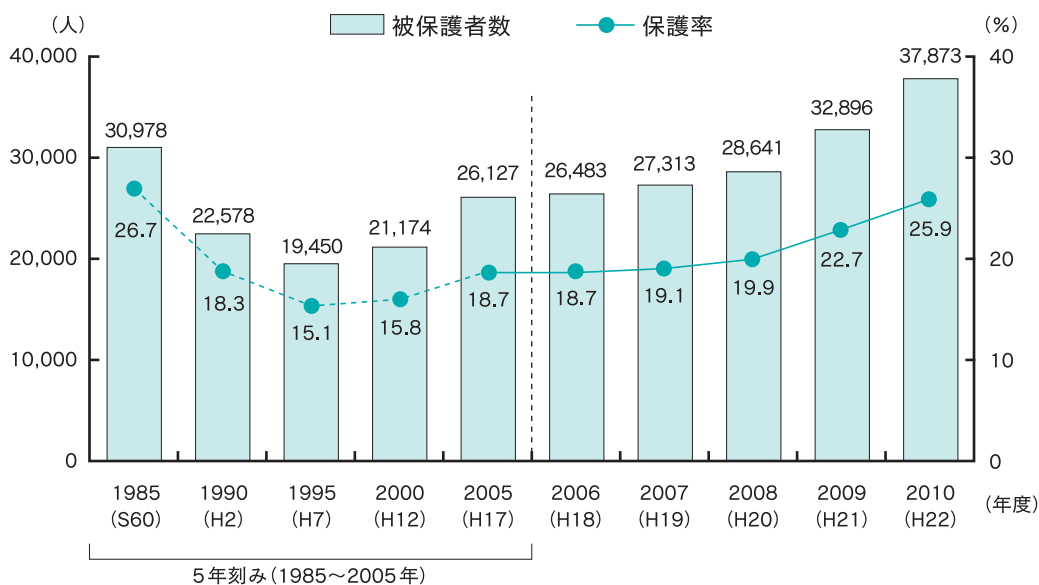
● 道路のバリアフリー整備状況



資料：福岡市道路下水道局
 (注)重点整備地区における特定経路整備(バリアフリー化)率

▶ 雇用情勢の悪化などに伴い、被保護者数が急激に増加している。

● 生活保護の状況



資料：被保護者数…福岡市保健福祉局
 保護率算出入口…各年度10月の推計人口
 (注)保護率：人口千人に対する被保護者数

3 市民・コミュニティ

- ▶ 市民は、人情味があり、あたたかい・おおらか・フレンドリー・ホスピタリティにあふれているという印象。
- ▶ 流入人口の多さと、共同住宅中心の住環境により、コミュニティが希薄化している。
- ▶ 若い人たちのコミュニティは主にウェブ上で結びついた仮想空間などであり、「コミュニティ」の捉え方に若者と高齢者との間でずれが生じている。

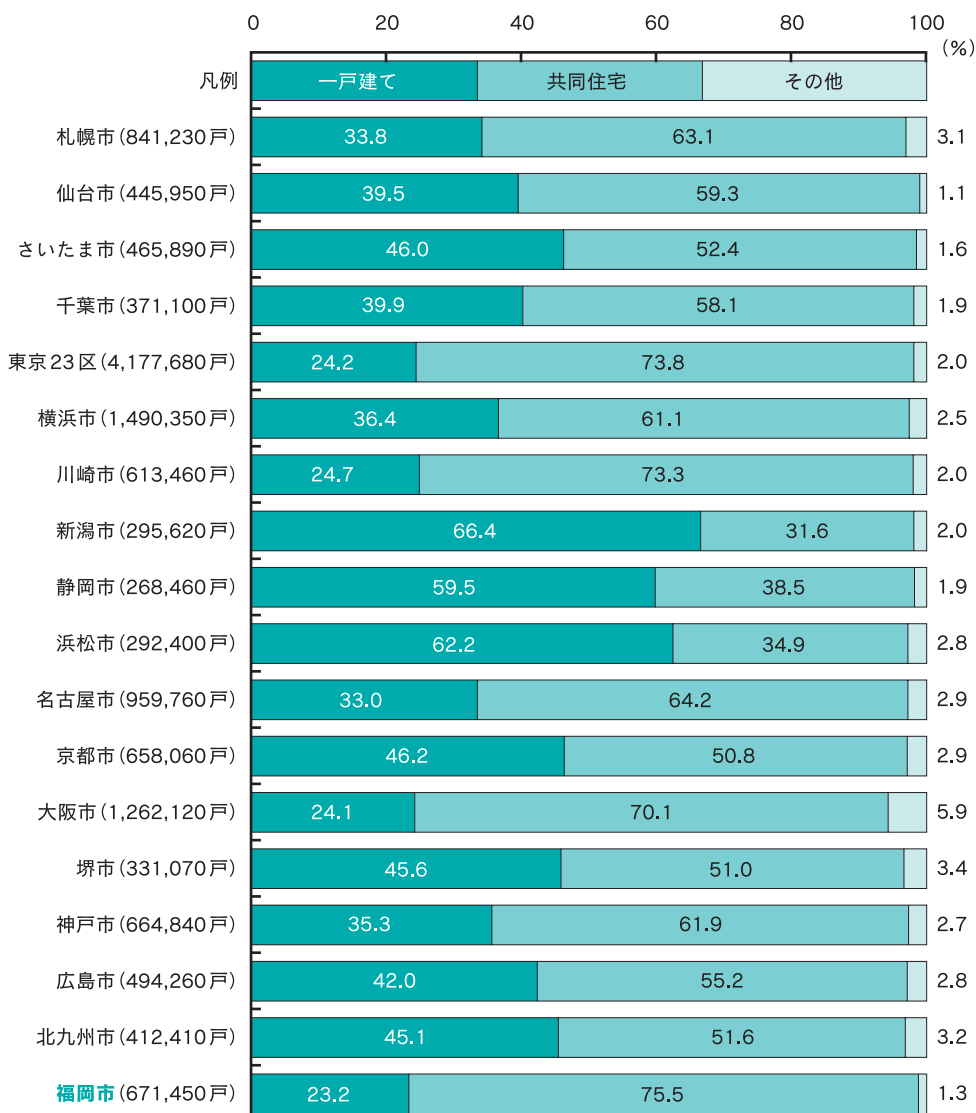
●自治協議会設立数

資料：福岡市市民局 (注)数値は各年度末現在

年度	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)
設立数	127	135	140	142	144	145	146
校区・地区数	146	146	147	149	149	149	149

●建て方別住宅数(全国比較)

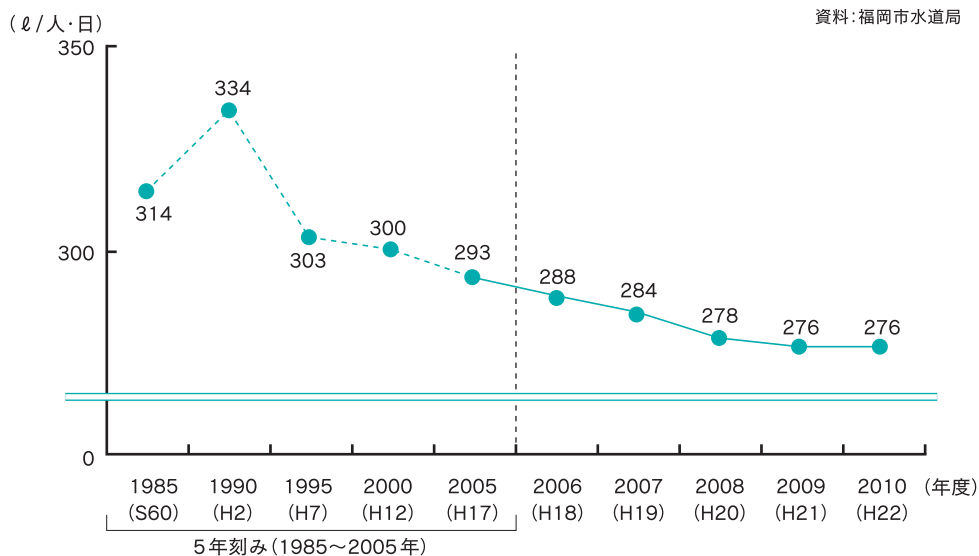
資料：平成20年住宅・土地統計調査



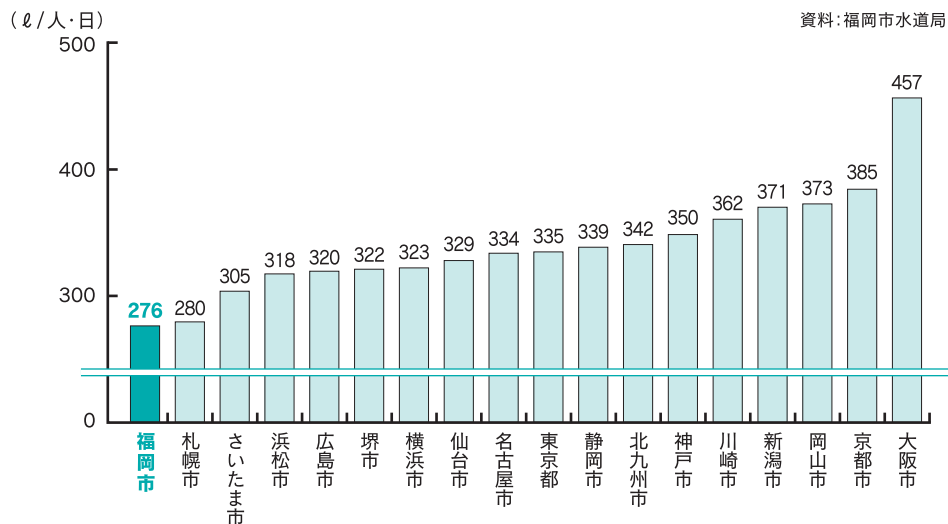
4 生活基盤・交通

- ▶ 都市機能がコンパクトにまとまり、都市環境と自然環境が調和していて生活しやすい都市である。
- ▶ 都市計画道路整備率、下水道人口普及率、河川改修率は飛躍的に伸びており、都市としての利便性や安全性が向上している。
- ▶ 高速交通体系が集中し、重要な交通結節点となっている。
- ▶ 市民一人当たりの水使用量の少なさは全国トップクラスである。
- ▶ 来街者へのユニバーサルデザイン整備(ハード・ソフト)が不足している。
- ▶ 1960年代から集中的に建設された都心部の民間ビルなどの多くは更新時期が到来している。
- ▶ 空港、港湾、鉄道など都市交通の整備は進んでいる。
しかし、効率的な運用には課題がある。
- ▶ 郊外では、地域コミュニティの維持をはじめ、バス等の生活交通の維持・確保、地域拠点への結節機能の強化が必要である。

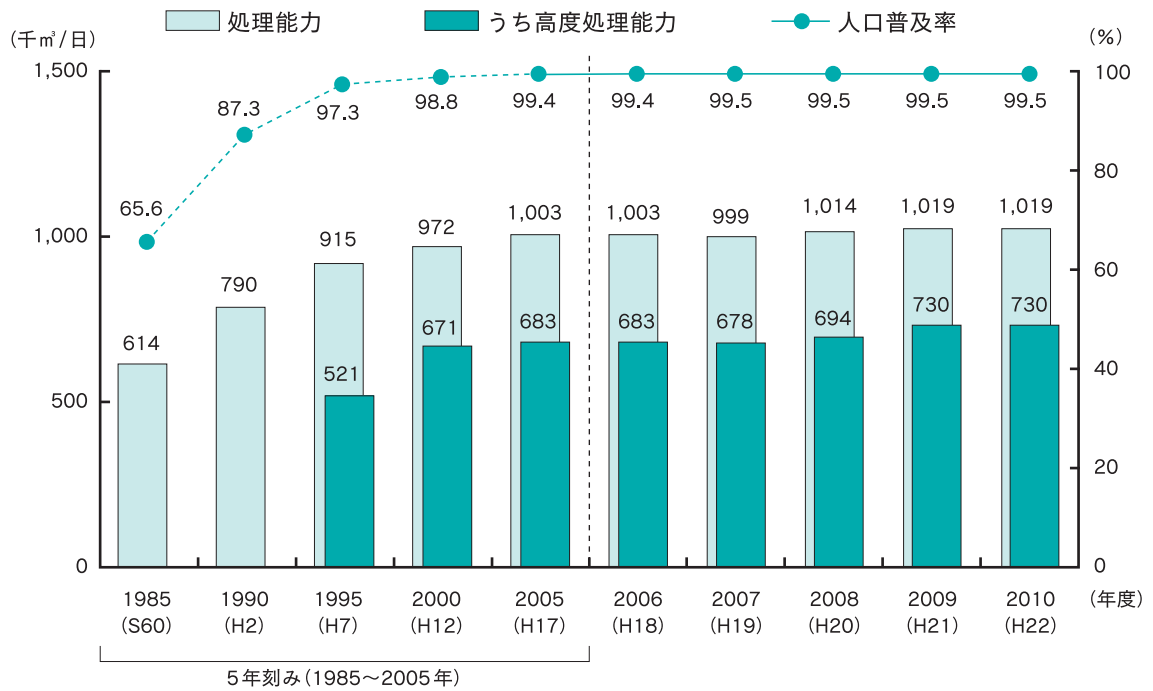
●1人1日当たりの平均給水量



●1人1日あたりの平均給水量【大都市比較】

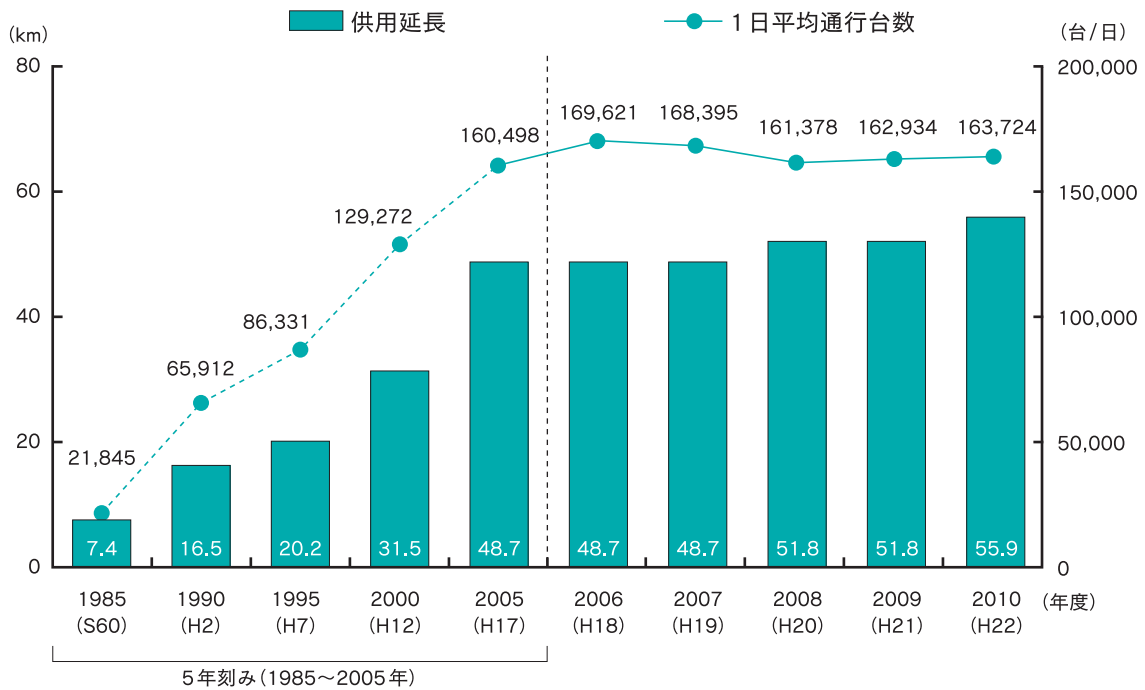


● 下水道施設処理能力と人口普及率



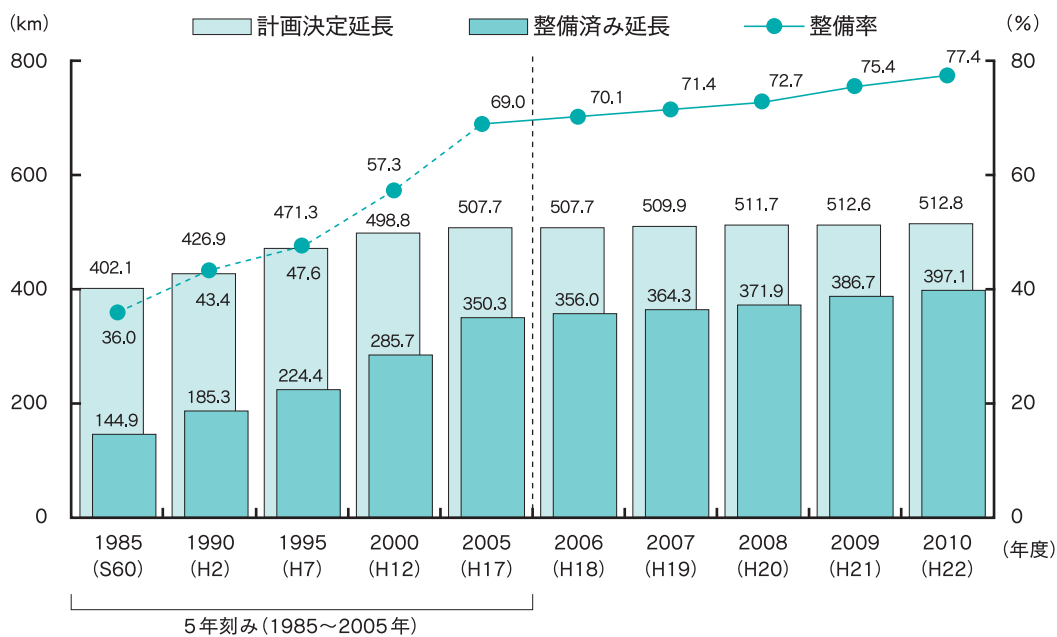
資料:福岡市道路下水道局
 (注)「処理能力」には御笠川浄化センター(県下水道公社)を含む
 (注)高度処理:標準的下水処理よりも高度に窒素、リン等を除去する処理
 御笠川浄化センターを除く全ての水処理センターで脱リン処理を行っている

● 都市高速道路の状況



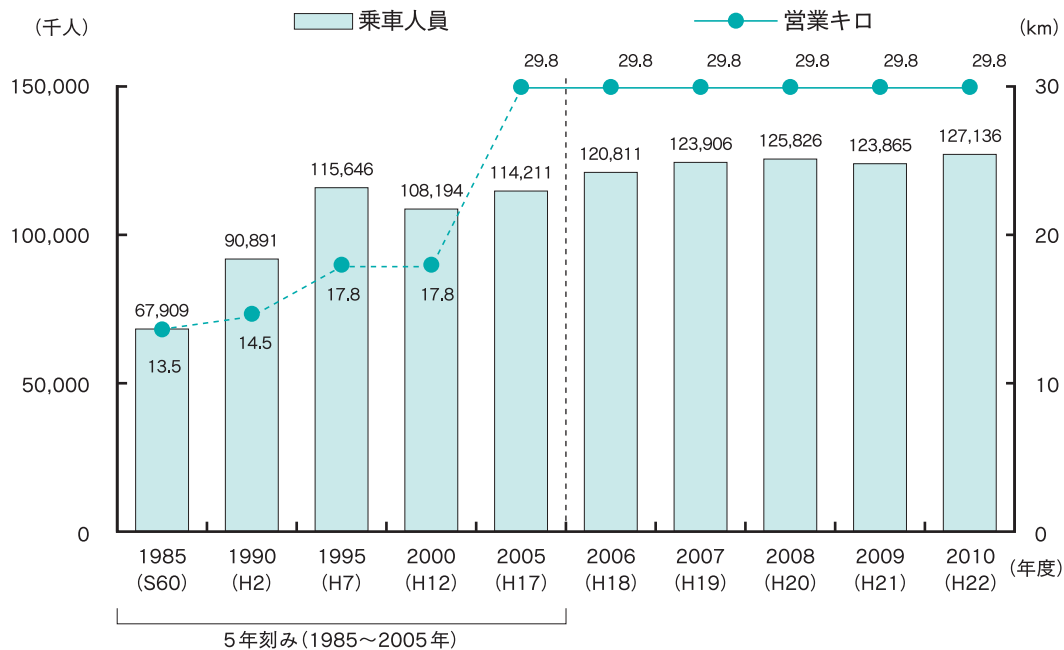
資料:福岡市道路下水道局

●都市計画道路の整備状況



資料:福岡市道路下水道局

●市営地下鉄の状況 (乗車人員・営業キロ)

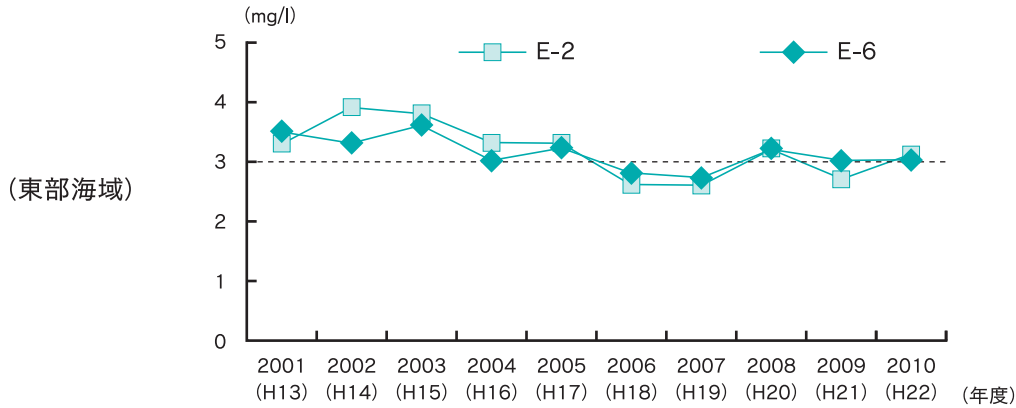


資料:福岡市交通局

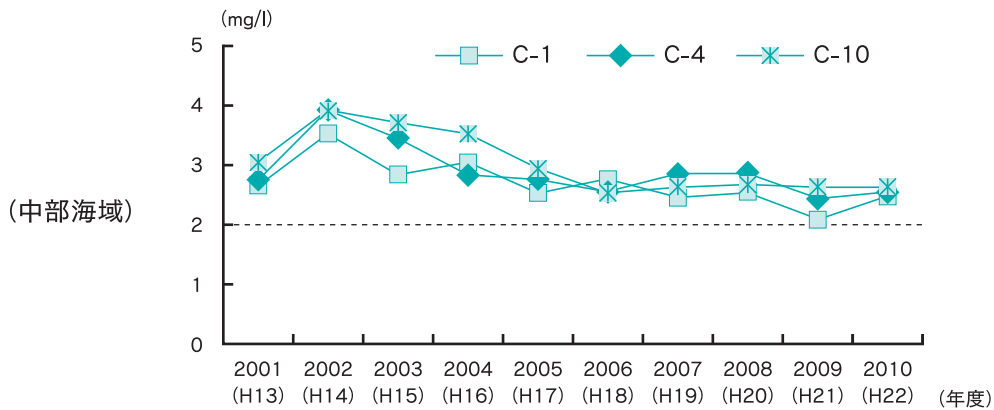
5 自然・環境

- ▶ 都市と自然との距離が近く、車で海のそばまで行って海岸線を散歩でき、自然を身近に感じることができる。
- ▶ 下水道整備が進んだおかげで「水質」が改善されている。

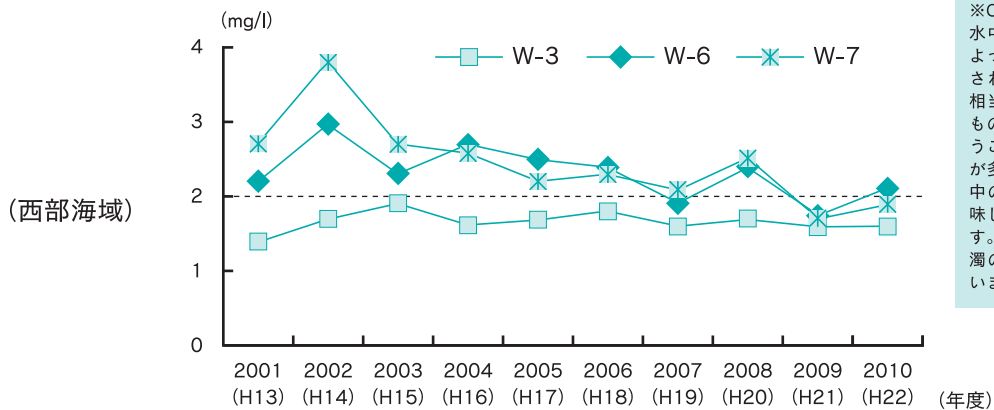
● 博多湾の水質(COD75%値の推移)



資料:福岡市環境局
 (注)点線は環境基準値
 (注)E-2、E-6は福岡市が毎月1回調査する環境基準点(8地点)のうち、博多湾内東部海域の2地点。



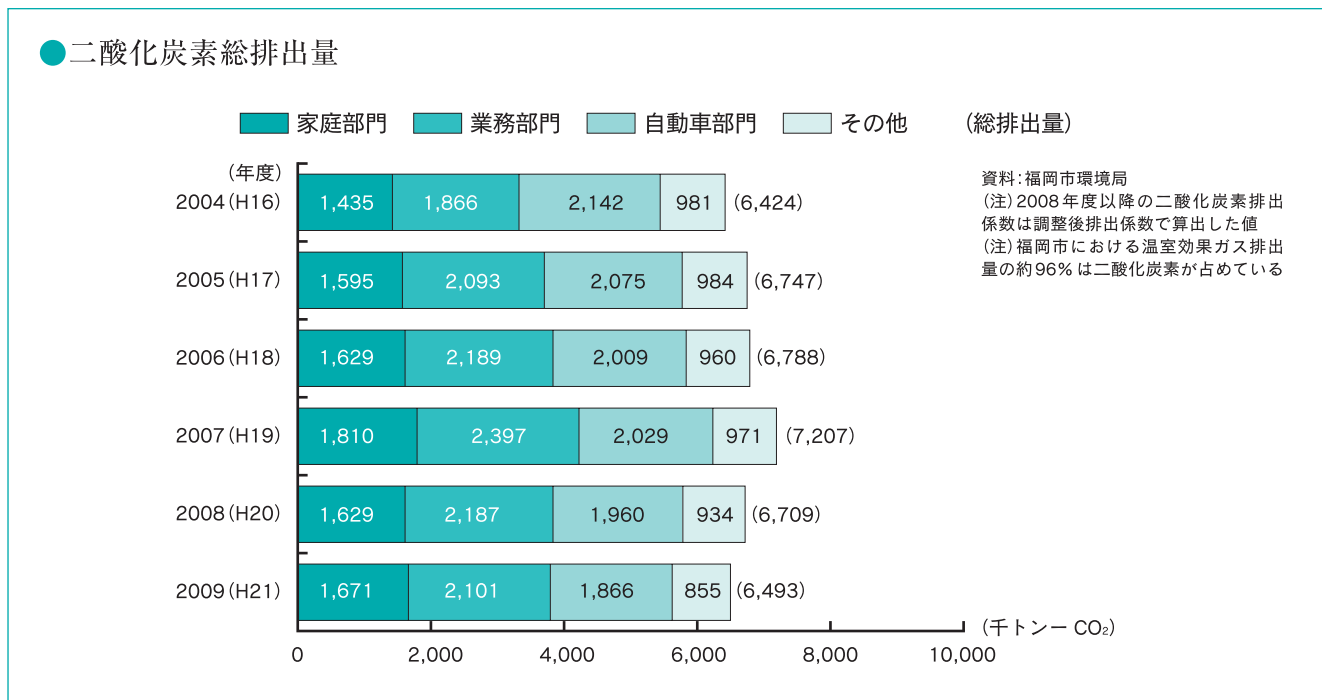
資料:福岡市環境局
 (注)点線は環境基準値
 (注)C-1、C-4、C-10は福岡市が毎月1回調査する環境基準点(8地点)のうち、博多湾内中部海域の3地点。



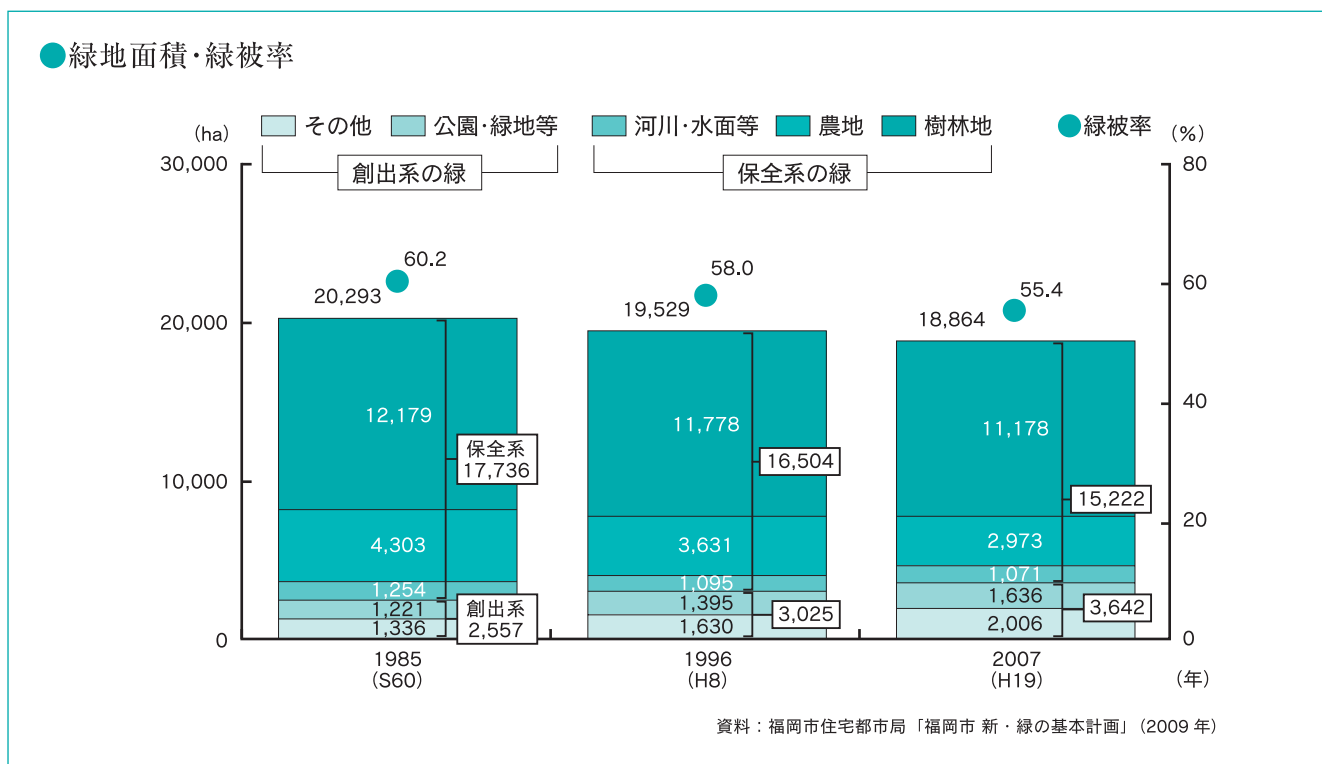
資料:福岡市環境局
 (注)点線は環境基準値
 (注)W-3、W-6、W-7は福岡市が毎月1回調査する環境基準点(8地点)のうち、博多湾内西部海域の3地点。

※COD(化学的酸素要求量)
 水中の有機物等が酸化剤によって酸化されるとき、消費された酸化剤の量をそれに相当する酸素の量で表したものです。数字が大きいうことは、消費された酸化剤が多いということになり、水中の有機物が多いことを意味し、汚濁度が高いといえます。CODは海域・湖沼での汚濁の指標として用いられています。

- ▶ 大陸に近く黄砂など大陸の環境悪化の影響を受けやすい都市である。
- ▶ 福岡市の平均気温は、この100年間で3.2度上昇し、上昇幅は東京に次いで2番目。最低気温については5.2度も上昇しており日本一となっている。
- ▶ コンパクトな都市であり、都市（建築物・交通）の低炭素化に有利な都市である。



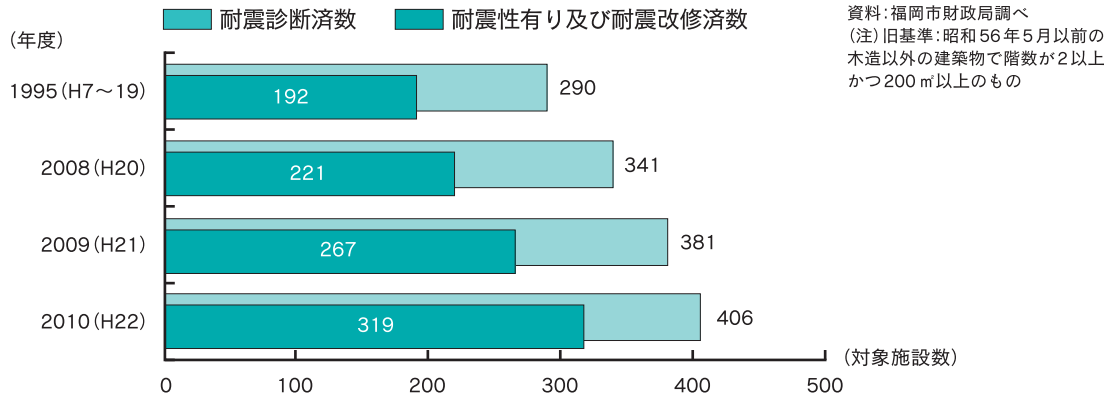
- ▶ 生きものを大切にする開発が課題である。
- ▶ 公園・緑地等の「創出系の緑」は増加しているが、樹林地や農地などの「保全系の緑」が減少し、全体的に市域の緑は減少している。



6 安全・安心

- ▶ 自然災害が少ない都市である。
- ▶ 安心できる防災拠点が少ない。(避難施設、備蓄施設など)

● 公共建築物の耐震化の状況(旧基準による全406箇所)



- ▶ 安全安心なまちづくりが十分でないと感じる。

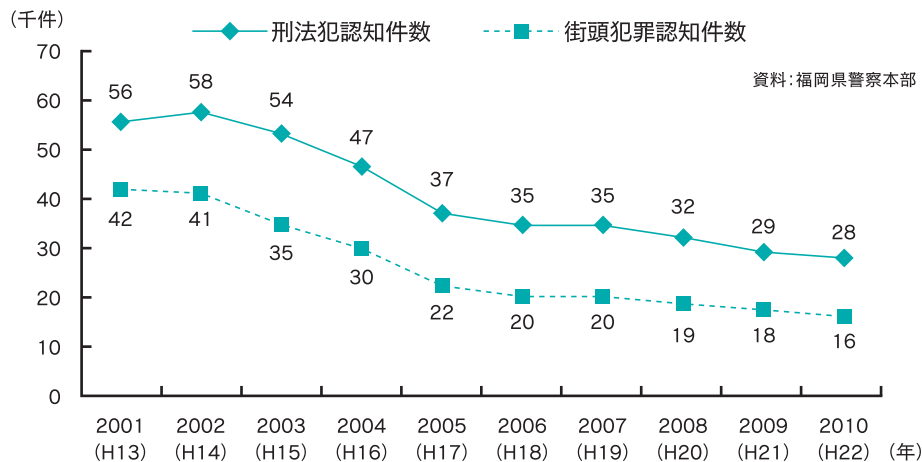
● 政令指定都市における人口千人当たりの街頭犯罪認知件数のワースト5

(注)人口は2010(H22)年12月1日付推計人口 (2010(H22)年)

順位	自転車盗		オートバイ盗		自販機ねらい		強制わいせつ等		空き巣		ひったくり	
	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり
1	大阪市	5.56	福岡市	2.1	名古屋市	0.34	大阪市	0.139	名古屋市	1.22	名古屋市	0.47
2	福岡市	5.43	神戸市	1.51	福岡市	0.3	堺市	0.128	堺市	0.72	千葉市	0.44
3	千葉市	5.21	京都市	1.45	北九州市	0.28	福岡市	0.124	福岡市	0.63	大阪市	0.38
4	京都市	4.99	相模原市	1.14	新潟市	0.28	仙台市	0.121	さいたま市	0.56	京都市	0.32
5	岡山市	4.95	堺市	0.97	大阪市	0.25	北九州市	0.121	大阪市	0.56	福岡市	0.29

資料:福岡市市民局

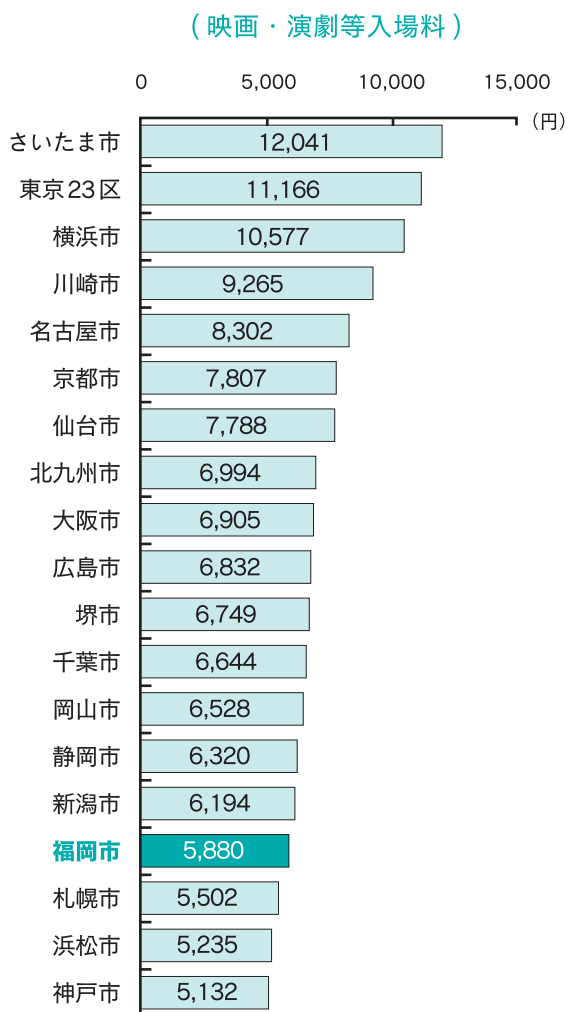
● 刑法犯・街頭犯罪認知件数(福岡市)



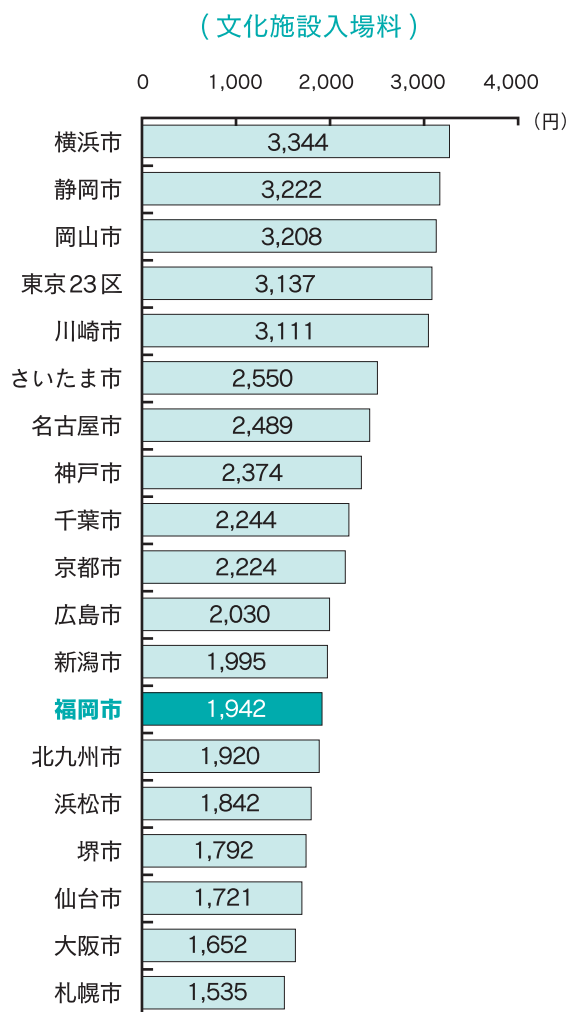
7 歴史・文化・スポーツ

- ▶ 元々芸所であり、劇団も多く、音楽文化も盛んであるが、地元コンテンツを活かしきれていない。
- ▶ 歴史的な都市であるにもかかわらず、歴史的な建造物がほとんど残っていない。歴史的建造物を都市観光の施策に活用したり、固定資産として重視し、これらの形成・維持支援に取り組む必要がある。
- ▶ 歴史・文化に関わる資源はあるが、観光資源や魅力として活かされていない。

●1世帯あたり年間支出金額(大都市比較)

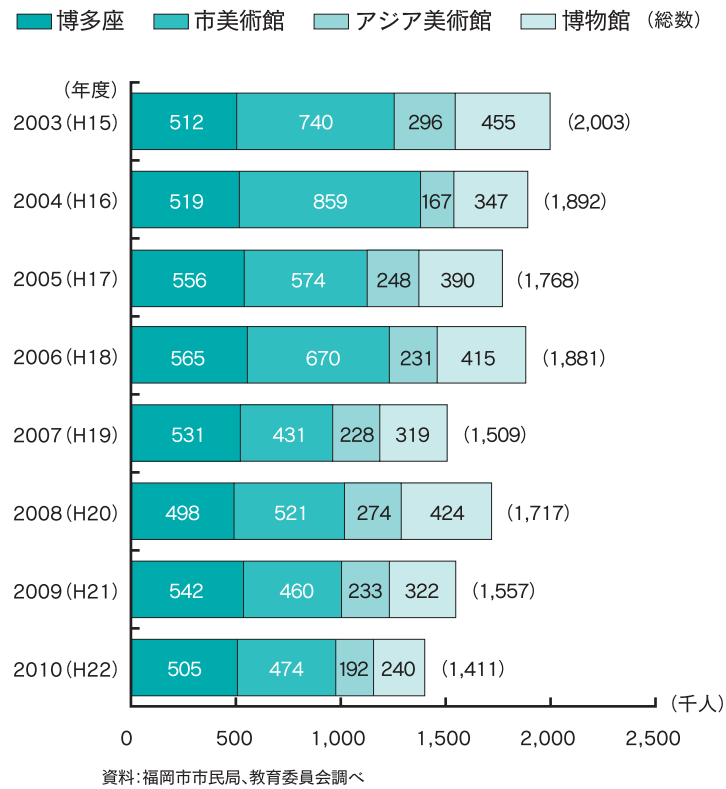


資料:平成22年家計調査年報



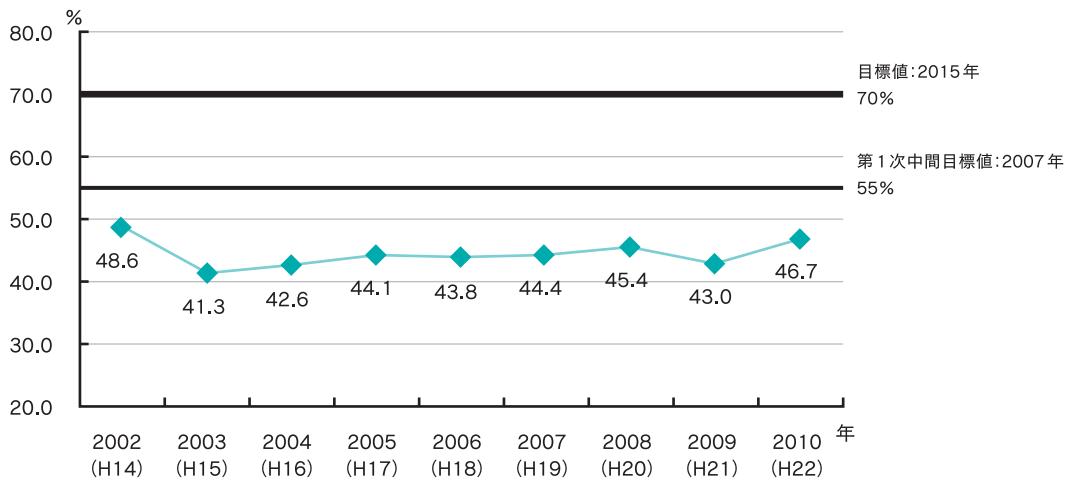
資料:平成22年家計調査年報

● 主な文化施設入場者(観覧)数



- ▶ 野球、サッカー、バスケットボール、ラグビーのプロチームの拠点があり、柔剣道などの武道も含めてスポーツが盛んである。
- ▶ 外遊びをしなくなった子ども達にたくましく、生きる力をつけるというスポーツの役割を考えると指導者の育成が重要となっている。

● 身近なスポーツ環境への満足度(スポーツする場や機会が身近にあると感じる市民の割合)

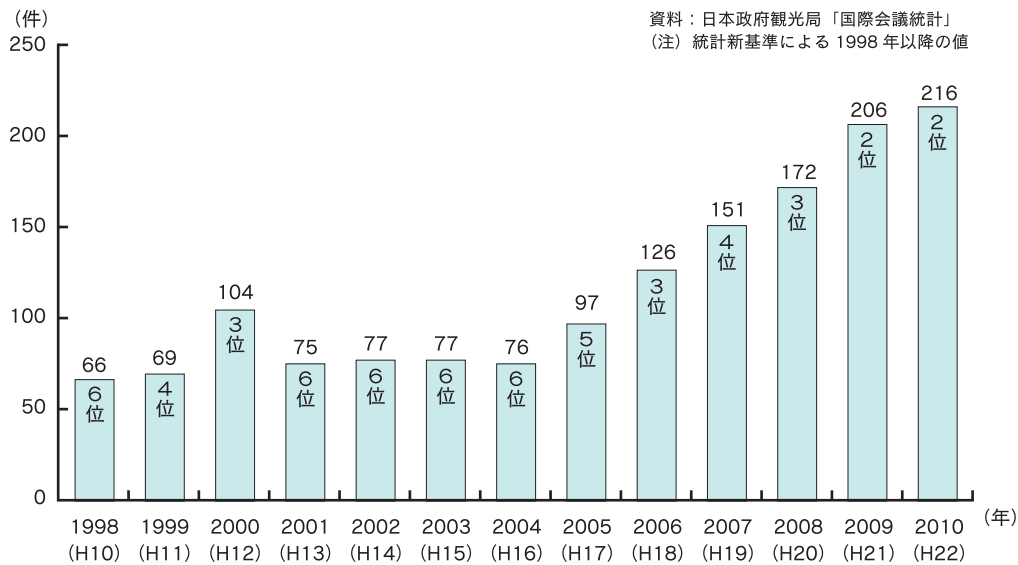


資料: 福岡市総務企画局
「福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査」

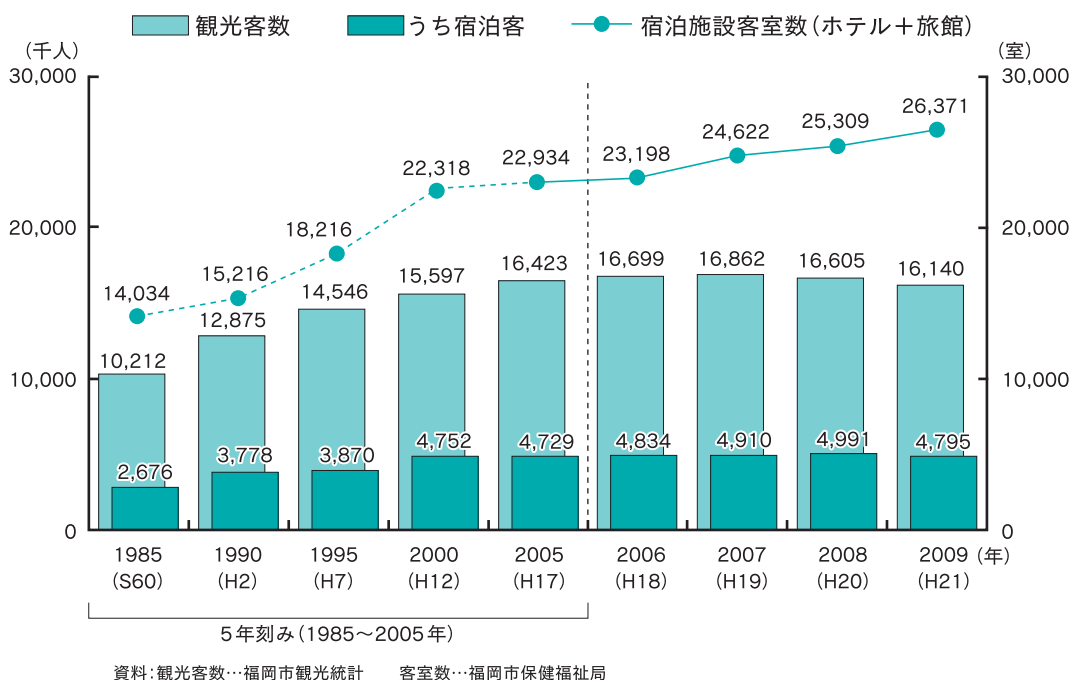
8 観光・集客

- ▶ オープンな体質や環境があり、新しい人、モノをひきつけられる可能性はある。
- ▶ 美味しいものや食は福岡の魅力である。
- ▶ 海辺の整備は不十分。海に近い都市部の好条件を活用していない。
- ▶ 福岡は「最も住みやすい都市」の上位にランキングされながら、観光の部分では弱いというギャップがある。
- ▶ 「これ」という「売り」が少なく、都市ブランドが弱い。(観光スポットがない)
- ▶ 東京や大阪に比べて観光客を取り込もうとするエネルギーが小さいように感じる。

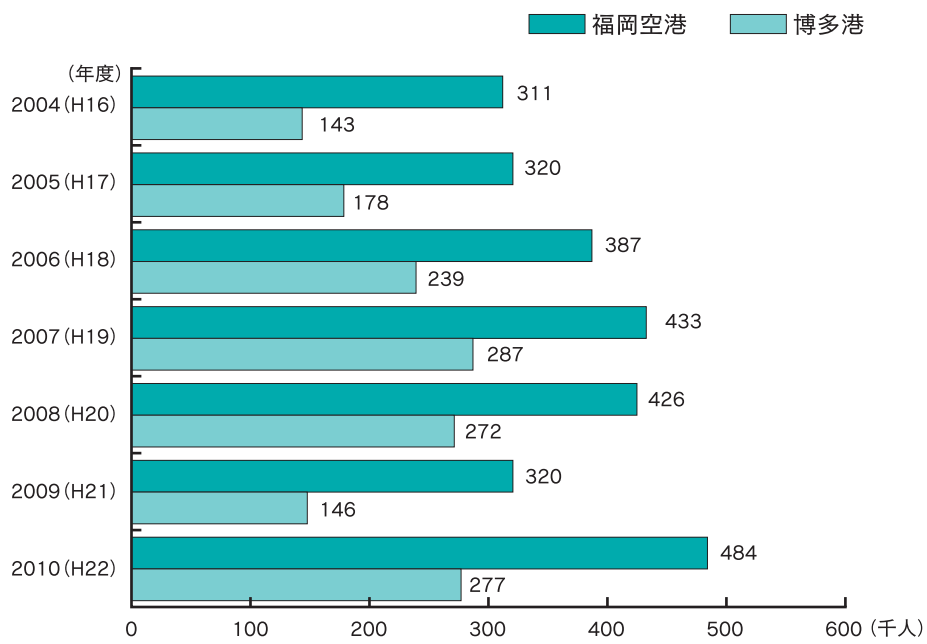
● 国際会議開催状況(開催件数+順位)



● 入込観光客数、ホテル客室数

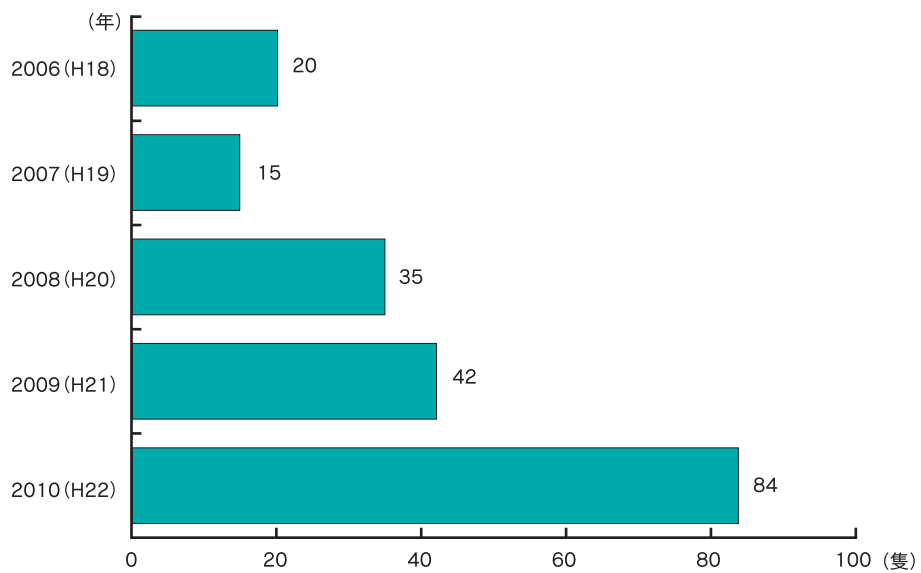


●外国人入国者数(福岡空港、博多港)



資料: 出入国管理統計年報

●クルーズ客船の入港数

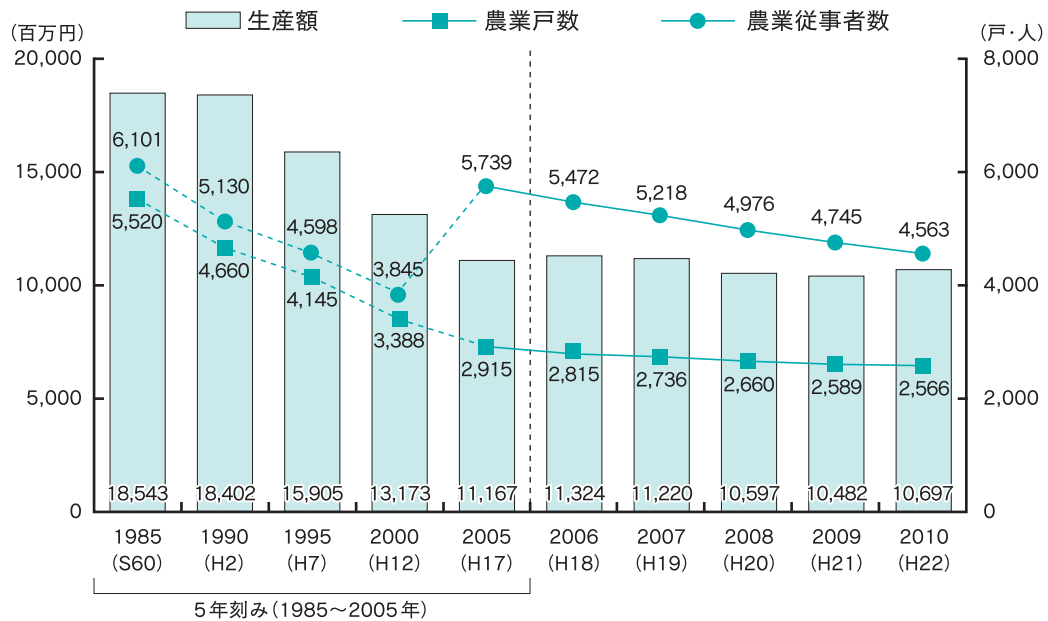


資料: 福岡市港湾局

9 農林水産

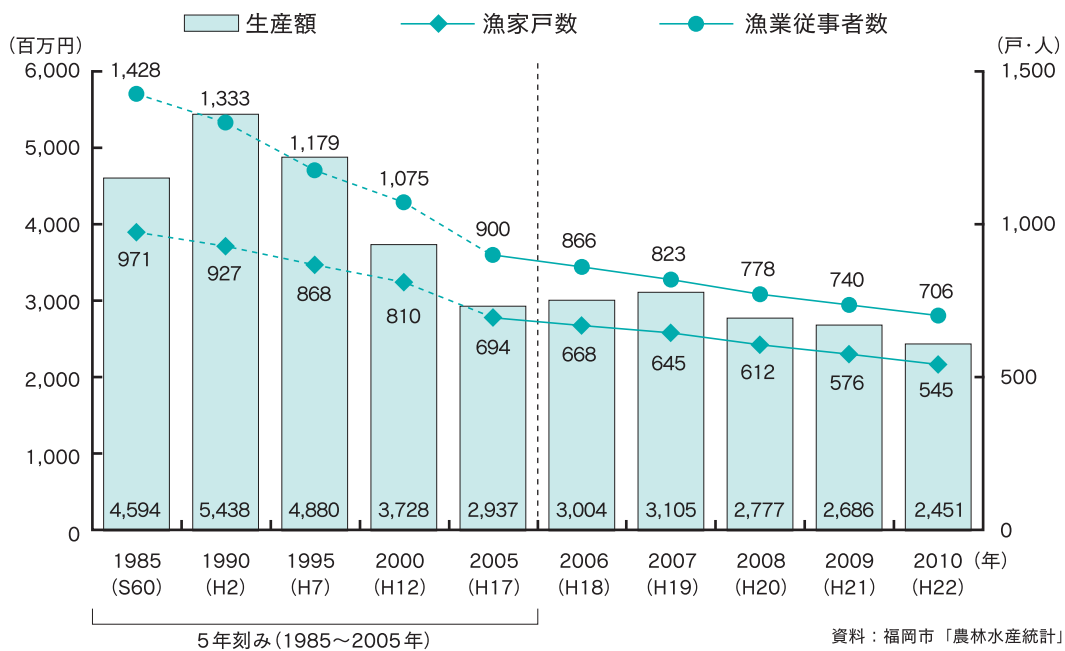
- ▶ 全国有数の花き産地である。
- ▶ 博多漁港は取扱金額が全国1位である。
- ▶ 生産・流通・消費が近接しており、新鮮な魚が食べられる。

● 農業の状況(生産額と農業従業者数・戸数)



資料:福岡市「農林水産統計」
 (注)従業者数は2005年より「自営農業に従事した販売農家の世帯員数」に変更

● 水産業の状況(沿岸漁業:生産額と漁業従業者数・戸数)

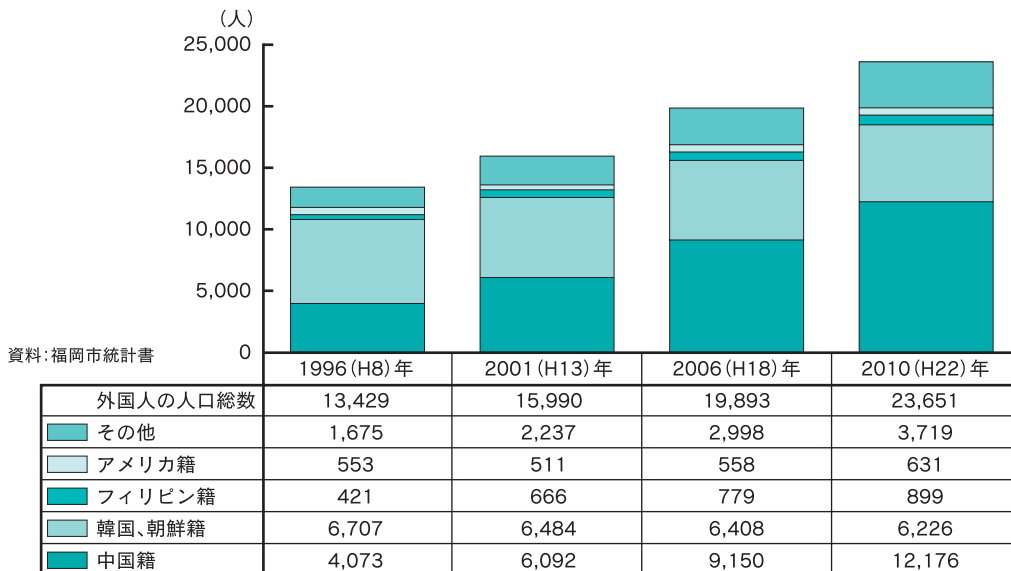


資料:福岡市「農林水産統計」

10 アジア・国際化

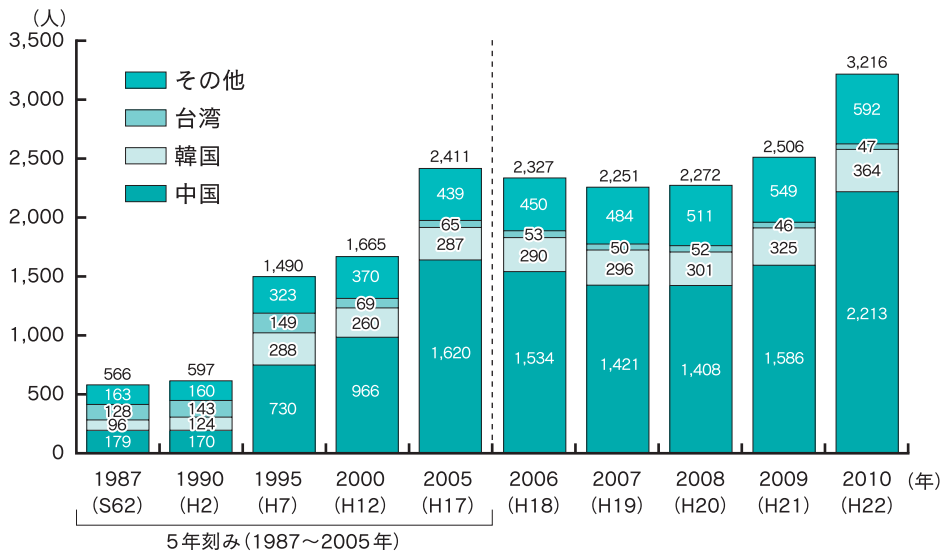
- ▶ アジアとの地理的近接性はメリットである。
- ▶ アジア太平洋子ども会議やアジアマンスなど、早い時期からアジアに注目して様々な事業を進めてきたことは評価される。
- ▶ アジアとの人的交流は進んでいるものの、経済的交流はまだ十分でない。
- ▶ 「アジアの交流拠点都市」や「玄関口」を掲げている割には、名実ともにそこまで至っていない。
- ▶ 25年前と比較すると、多言語看板が増えるなど外国人には住みやすくなったが、まだ十分ではない。外国人の子どもの就学環境の整備など、量と質の両面からもっと多様性を受け入れる対応が必要である。
- ▶ 他の日本の都市と同様、英語やアジア言語を話せる人材が不足している。
- ▶ 外国人就労数は、留学生数に比べて少ない。

● 外国人登録者数

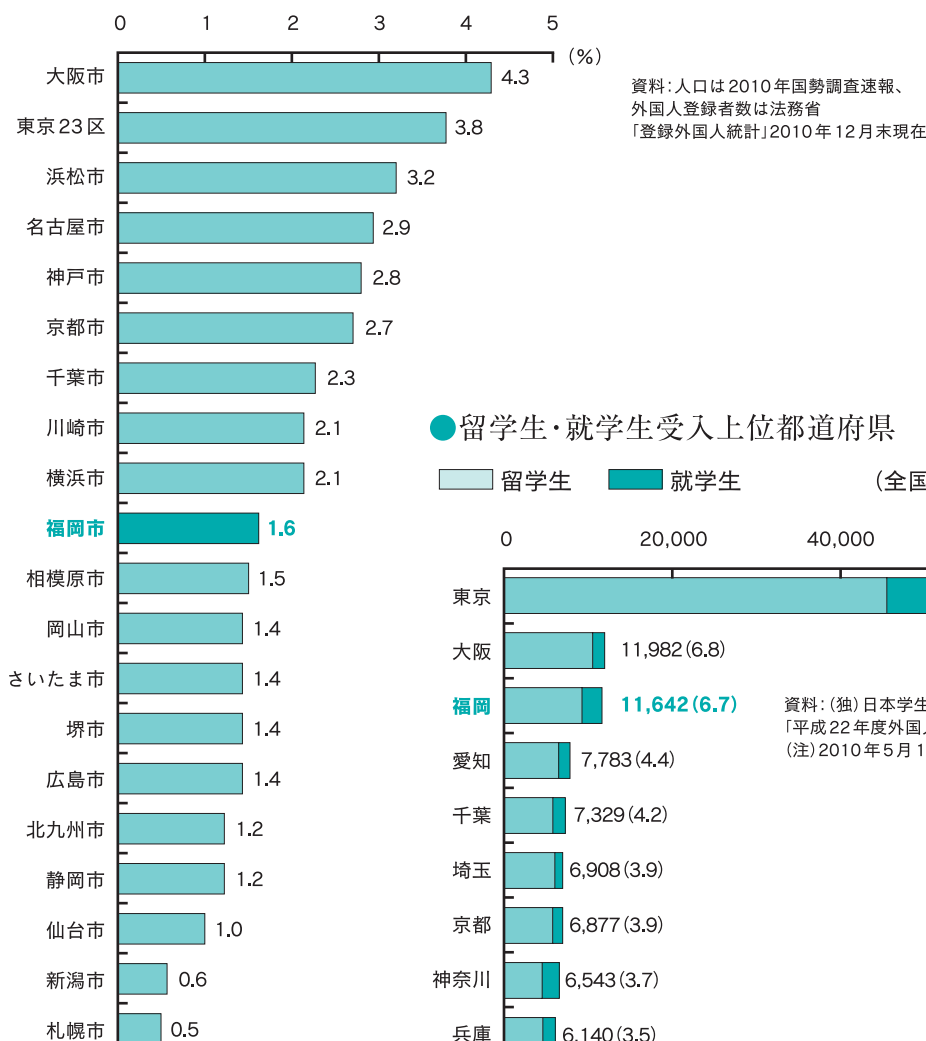


● 留学生の状況

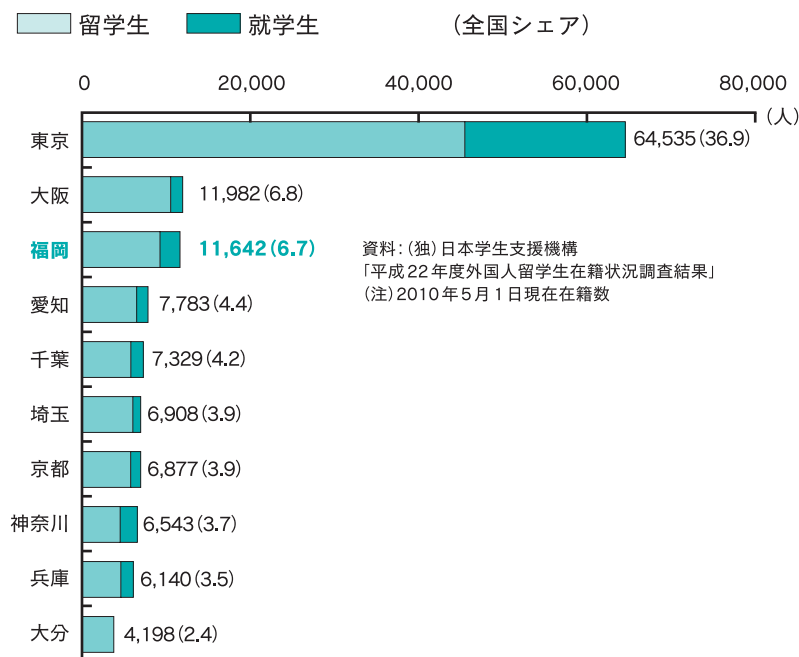
資料：1987年～2005年（財）福岡国際交流協会、2006年～2010年福岡地域留学生交流推進協議会
 (注) 1987年～1996年福岡市内の大学の留学生数、1997年～2010年福岡市内の大学・短期大学の留学生数



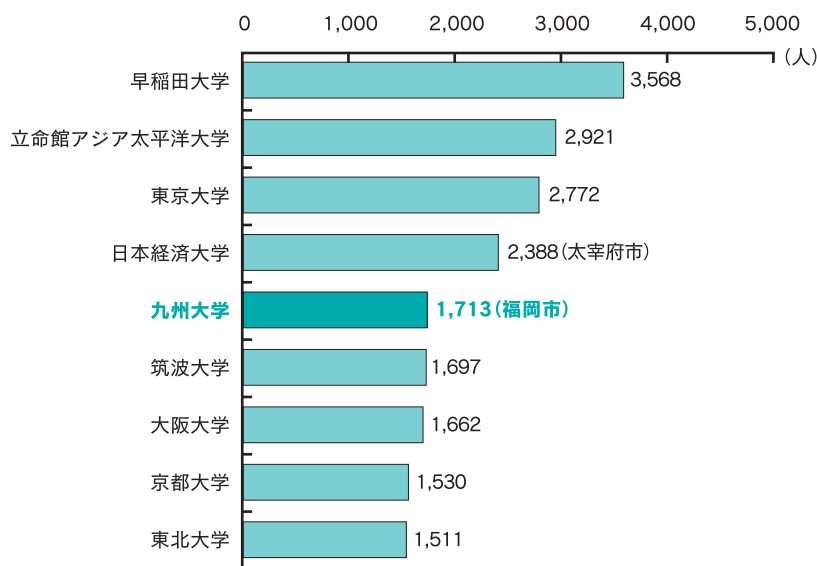
● 総人口に占める外国人登録者の割合(大都市比較)



● 留学生・就学生受入上位都道府県



● 国内の留学生受入数上位大学

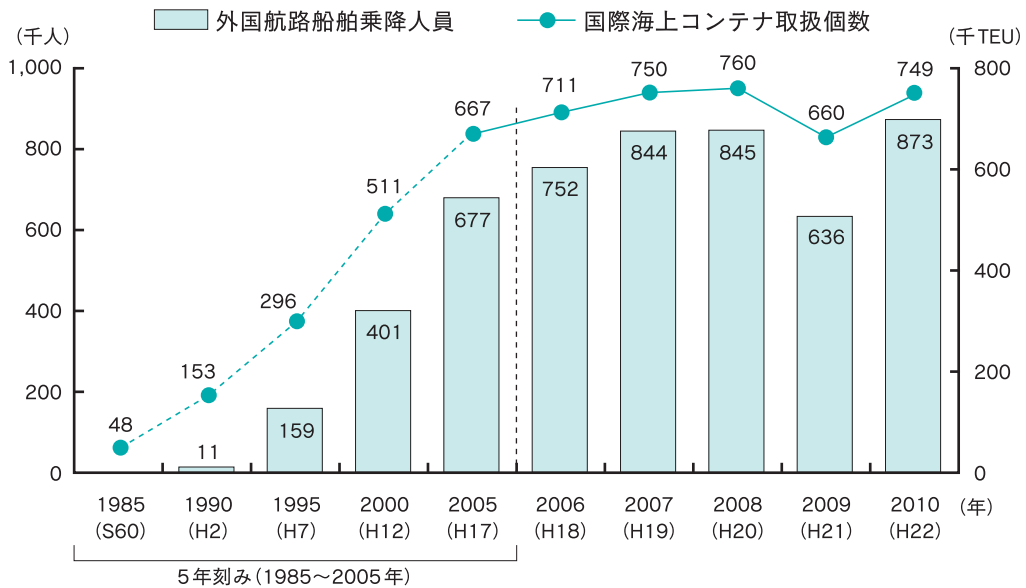


資料: (独)日本学生支援機構「平成22年度外国人留学生在籍状況調査結果」(注)2010年5月1日現在在籍数

11 港湾・空港

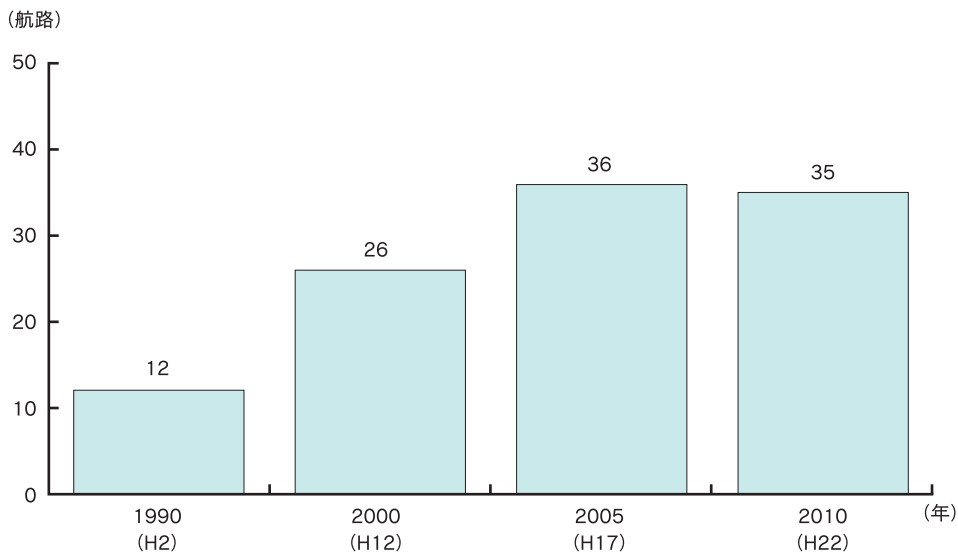
- ▶ 外国航路船舶乗降人員数が、18年連続全国第1位である。
- ▶ 外航クルーズ入港数63回は、全国第1位である。
- ▶ 海外へもアクセスがすぐれた都市型空港がある。
- ▶ 大陸、半島へ向かっている港湾、空港を持っている点は、アジアとの人流、物流の結節点という意味で大きなアドバンテージである。

● 外国航路船舶乗降人員と国際海上コンテナ取扱個数



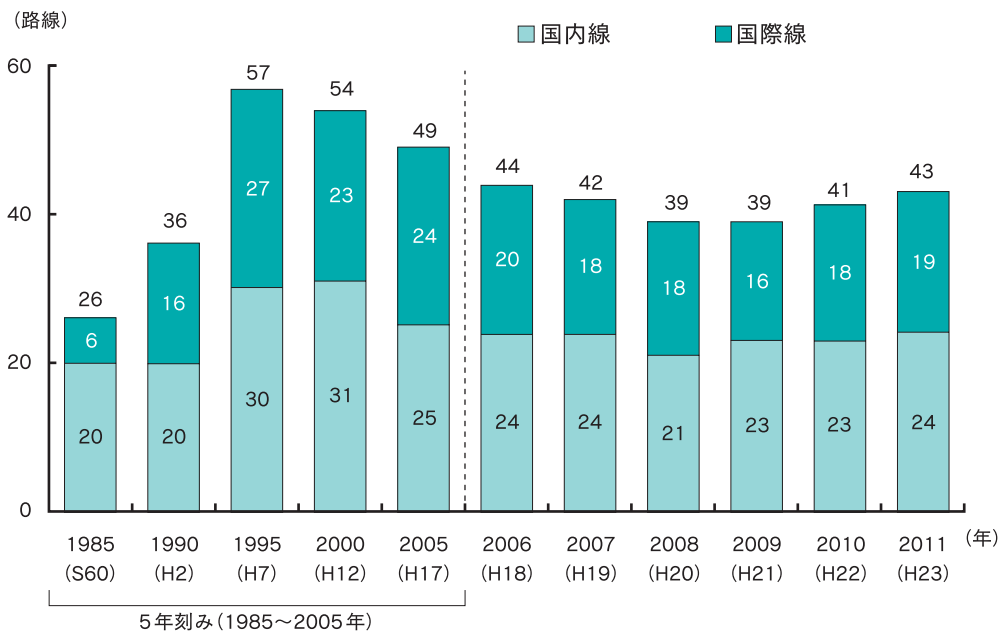
資料:福岡市港湾局「博多港統計年報」
 (注)四捨五入しているため、合計値の合わないところがある
 (注)TEU:Twenty-foot Equivalent Unit 20フィートコンテナ換算個数1個のこと

● 国際コンテナ定期航路数



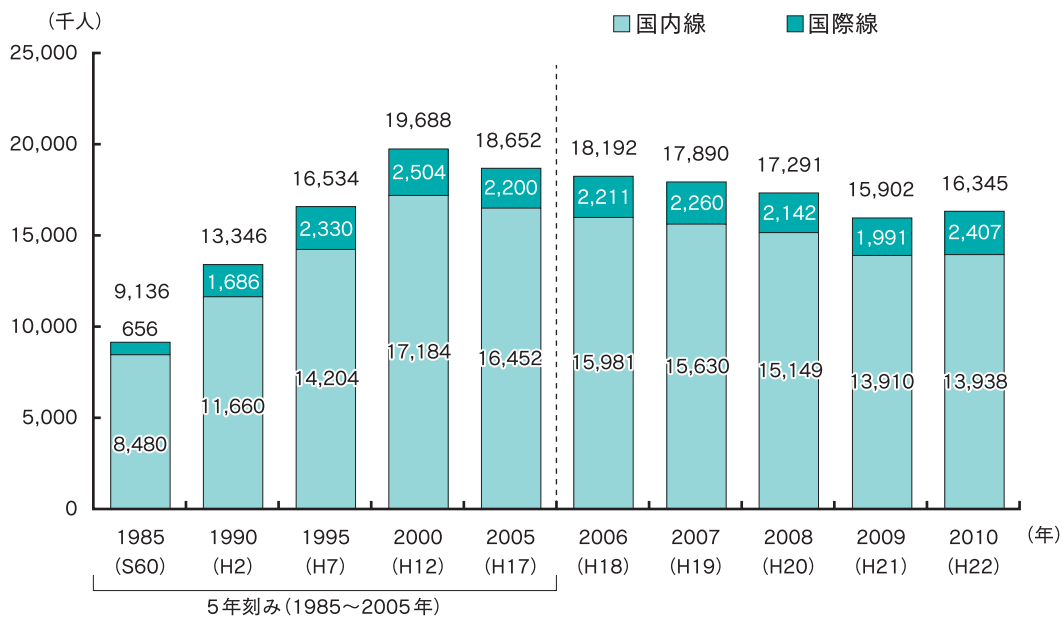
資料:福岡市港湾局

● 航空路線数



資料:福岡空港ビルディング時刻表(各年6月実績)

● 福岡空港乗降客数

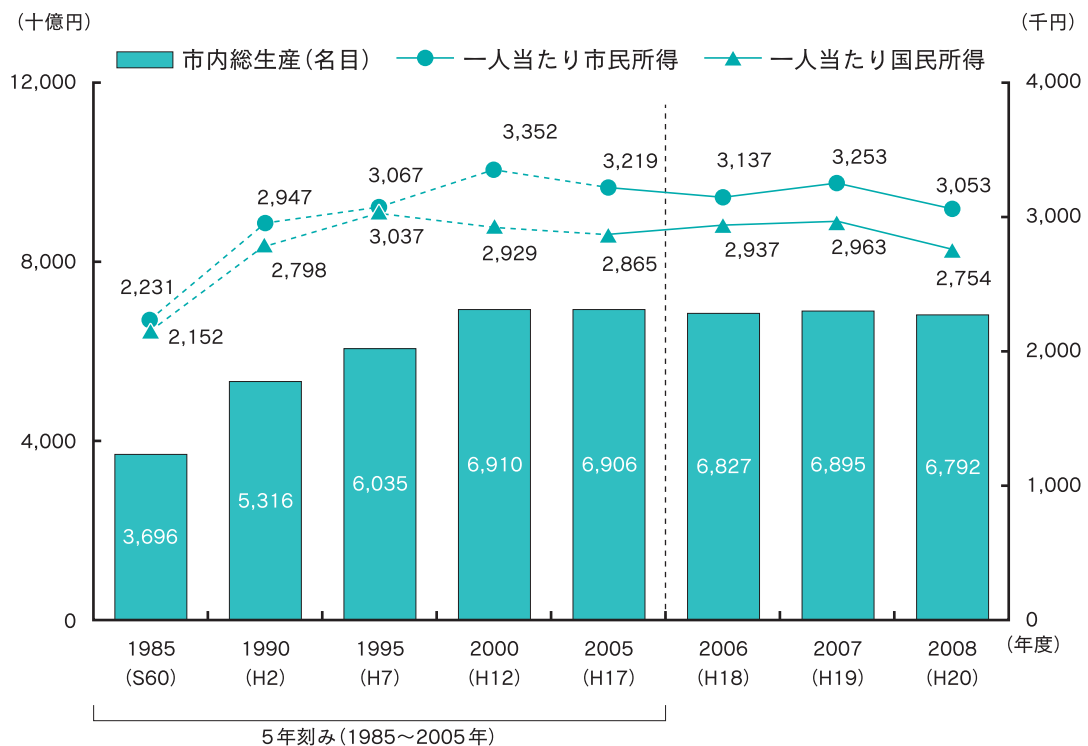


資料:国土交通省「空港管理状況調書」
(注)2010年は国土交通省速報値

12 産業振興

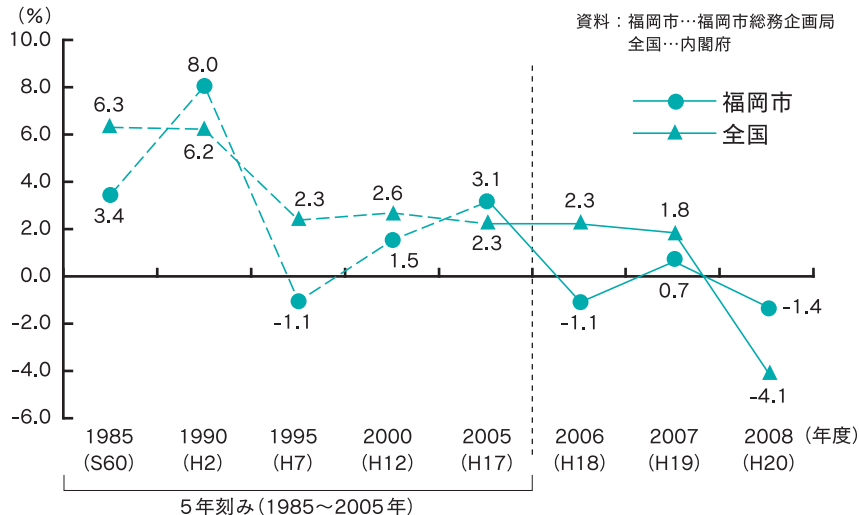
- ▶ ビジネスへの関心が低い。起業やリスクをとることに意欲がない。
- ▶ 現状に甘んじてしまい「一番になろう」「トップを目指す」と思わなくなってしまう。
- ▶ 支店経済だと言われるように、企業間の競争が少ない都市である。グローバル競争に対して関心が低い都市であるように思う。
- ▶ ソフト産業にはポテンシャルがある。
- ▶ 対アジアのビジネス交流は進んでいない。
- ▶ 人材を受け入れる雇用の場がない。学生や若者は九州の就職先が少ないため、他地域へ流出する。女性(特に育児後)の再就職も難しい。
- ▶ 若者や女性の割合は高いが、その労働力が十分に活かされておらず就業機会も少ない。
- ▶ 大学卒業者(特に理系)の就職先が少ない。
- ▶ 第3次産業に偏った産業構造である。

● 市内総生産、市民所得

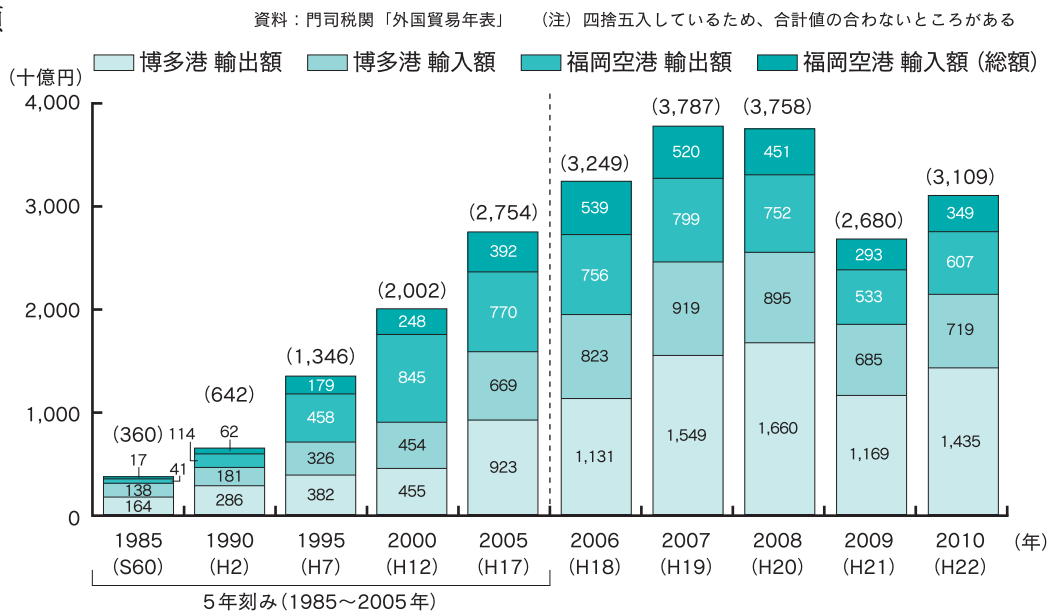


資料:福岡市総務企画局「福岡市民経済計算」、
 国民所得…内閣府経済社会総合研究所「国民経済計算年報」
 (注)1985・1990・1995は、平成11年度当時の推計方法とデータによる遡及改訂の結果
 (注)2000・2005~2008は、平成20年度当時の推計方法とデータによる遡及改訂の結果
 (注)1985・1990・1995の一人当たりの国民所得は2001年の集計による

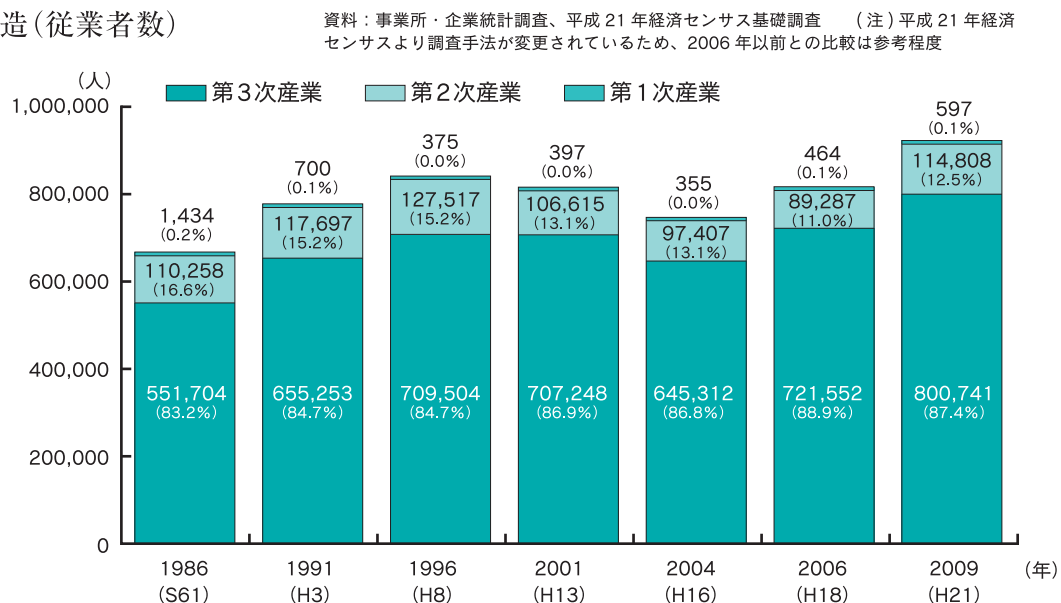
● 経済成長率の状況



● 貿易額



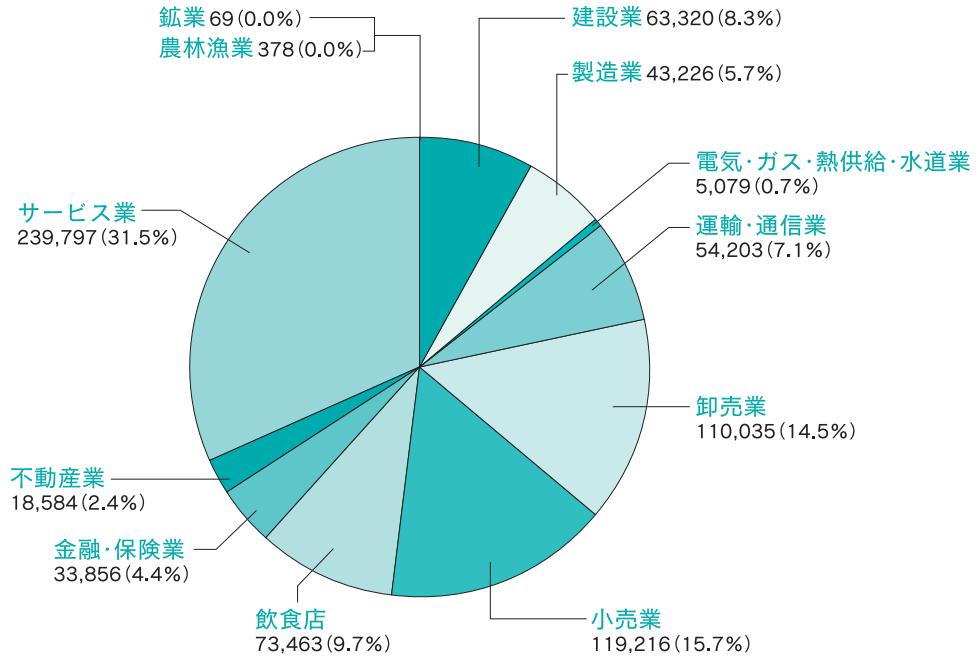
● 産業構造 (従業者数)



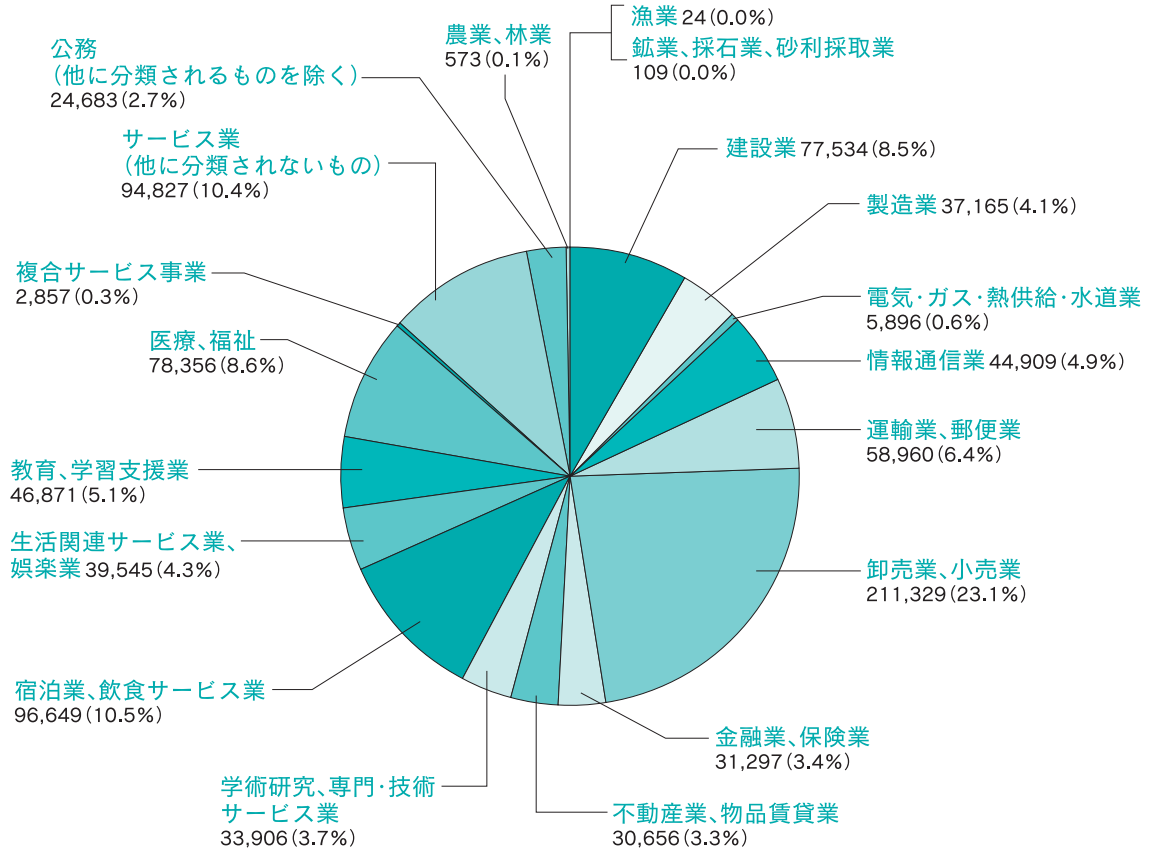
● 従業者数の割合(産業大分類別構成比)

資料：事業所・企業統計調査（平成13年）、平成21年経済センサス基礎調査
 (注)平成21年経済センサスより調査手法が変更されているため、比較は参考程度

【2001年（平成13年）】総数=761,226人



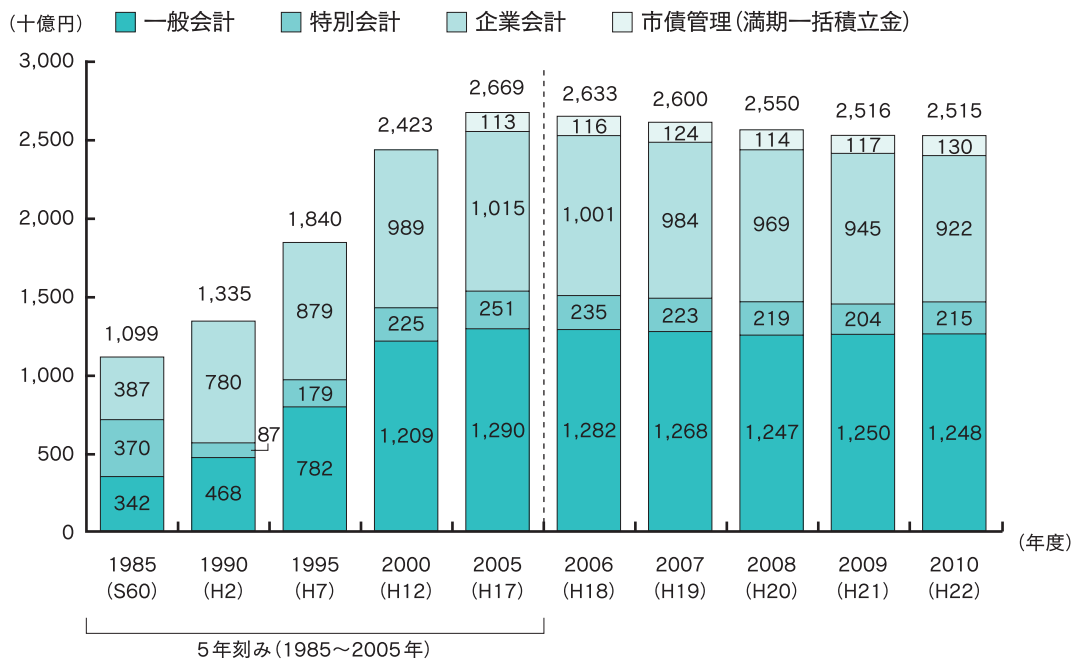
【2009年（平成21年）】総数=916,146人



その他

- ▶ 北九州市との役割分担や九州全体における位置づけを考えなくてはならない。
- ▶ 市債残高は減少傾向にあるが、依然として高い。

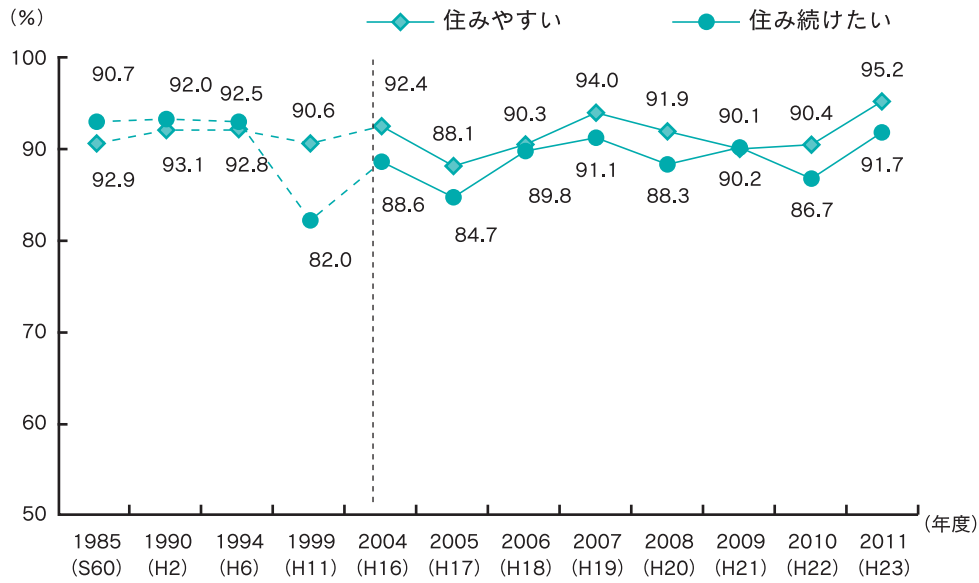
● 市債残高の状況



資料:福岡市財政局

【参考】

●福岡市の住みやすさ・定住志向について



資料：福岡市「市政に関する意識調査」の該当設問のある年度から抽出
 (注) 2004年は、「市政に関する信頼度調査」
 (注) 1999年以前の住みやすさについての設問は「非常に住みやすい」「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合算
 (注) 2004年以降の住みやすさについての設問は「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合算
 (注) 1999年以前の定住志向についての設問は「ぜひいつまでも住み続けたい」「なるべく住んでいたい」の合算
 (注) 2004年以降の定住志向についての設問は「ぜひ住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の合算
 (注) 件数：1985年=1,630件、1990年=1,672件、1994年=1,763件、1999年=1,704件、2004年=1,745件、2005年=1,779件、2006年=2,254件、2007年=2,373件、2008年=2,322件、2009年=2,633件、2010年=2,531件

●市民が望む都市像について

	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	1999 (H11)	2011 (H23)
1位	事故や災害、 犯罪のない安全な都市 (43.8)	自然に恵まれた 緑豊かな都市 (43.3)	生活環境がよく 整備された 暮らしやすい都市 (41.2)	生活環境が整備された 暮らしやすい都市 (46.8)	事故や犯罪の少なさ (52.0)
2位	自然に恵まれた 緑豊かな都市 (42.1)	住環境が整備された 暮らしやすい都市 (42.3)	自然に恵まれた 緑豊かな都市 (40.9)	障害者やお年寄り、 子どもなど弱い立場の 人を大切にする 福祉都市 (36.9)	十分に整備された 生活環境 (36.7)
3位	住環境が整備された 暮らしやすい都市 (41.9)	事故や災害、 犯罪のない安全な都市 (41.4)	事故や災害、 犯罪のない安全な都市 (36.1)	自然に恵まれた 緑豊かな都市 (36.3)	活力ある経済活動 (31.5)
4位	公害のない清潔な都市 (24.7)	障害者や老人など弱い 立場にある人を大切に する福祉都市 (26.1)	障害者やお年寄り、 子どもなど弱い立場の 人を大切にする 福祉都市 (30.6)	事故や災害、 犯罪のない安全な都市 (34.3)	高齢者や障害者など すべての方が 社会参加しやすい環境 (30.7)
5位	弱い人の立場を 大切にする福祉都市 (22.8)	公害のない清潔な都市 (20.7)	水に強い節水型都市 (30.3)	災害時の備えが整った 安心して暮らせる都市 (17.9)	災害への備え (27.0)

資料：福岡市「市政に関する意識調査」の該当設問のある年度から抽出